明治三十七年五月七日第三種郵便物認可
大正十一年六月一日發行（毎月一回一日發行）
女子青年界第十九卷六月號

THE Y.W.C.A. MONTHLY

女子青年界

六月號


暑い夏が來た
旅行には仁丹
消化と毒けし
仁丹
金言
旅行は人に忍耐を敎ふ
（西諺）

肉體を養ふには米鹽を要し精神を養ふには良書を以てす

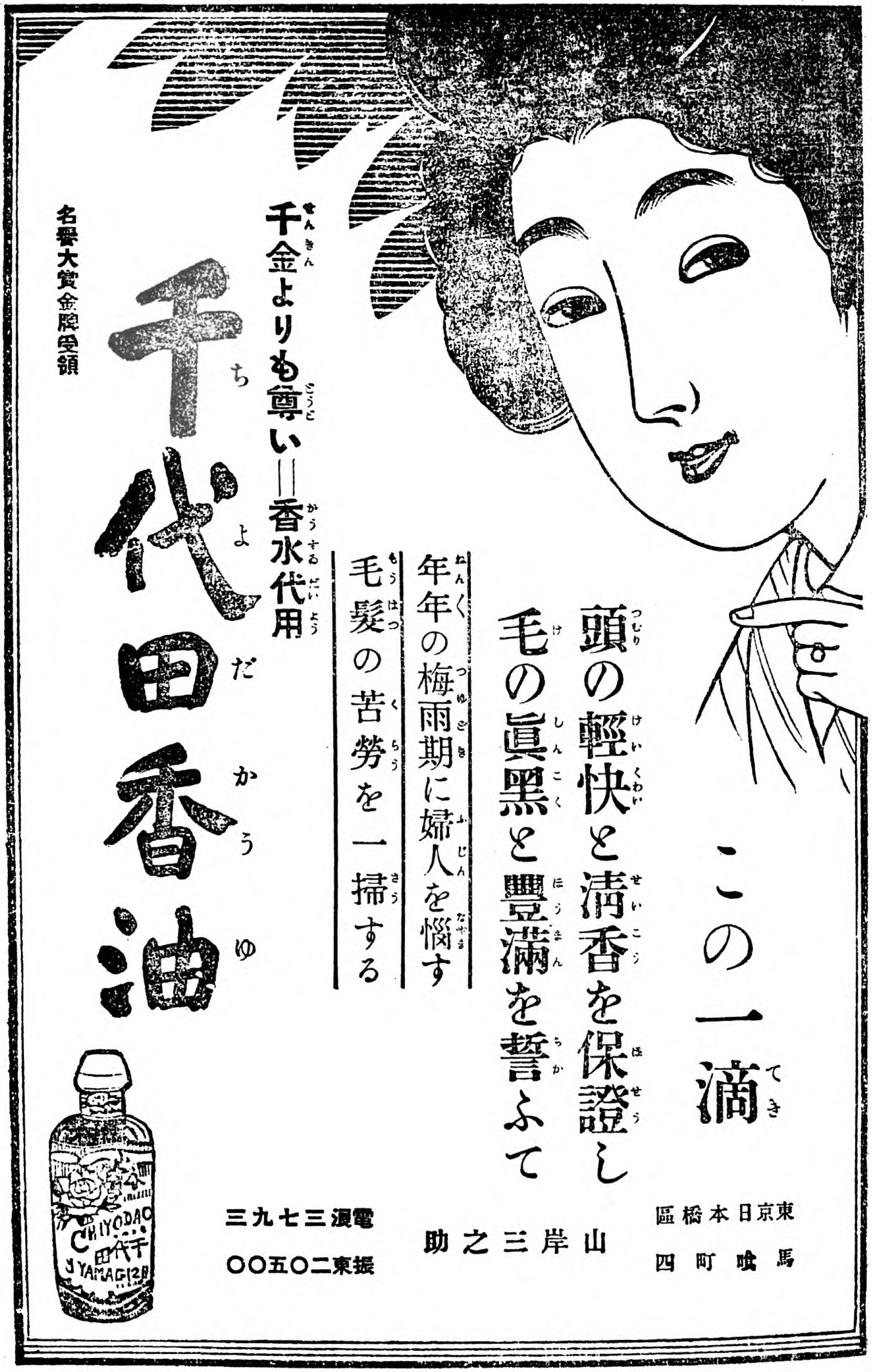
著者	書名	判型	頁數	定價・送料	版	内容
アート・スミス氏 外十四名士	禁酒美談	四六判 並製	一二九頁 五號カナ付	定價 円.三〇 送料 .〇六	二十二版	本書載するところは、皆悉く、實踐躬行の美談。
石黒忠悳序 松尾孝輔著	ナイチンゲイル物語	四六判 上製	二〇〇頁 五號カナ付	定價 一.二〇 送料 .〇六	第二版	愛の權化たる彼女の一生を傳し謙讓の美德を敎ふ
植村正久著	祈の生活	四六判 上製	三一三頁 五號カ付ナ	定價 一.五〇 送料 .一〇	第五版	祈の研究・主の祈・祈禱の題目等十八篇を收む。
植村正久序 高橋信太郎解	ペテロ前書研究	四六判 上製	一三二頁 五號カナ付	定價 一.〇〇 送料 .〇六	最新發行	本書は基督者の處世訓なり外交の秘策、攻防の戰略、此の一卷に收らる。
植村正久序 齋藤勇譯	宗敎詩 聖パウロ	四六判 上製	一七四頁 天金清楚	定價 一.〇〇 送料 .〇六	第四版	マイアズの傑作セント・パウロの譯書。 卷頭寫眞 マイアズ
菱沼東洲譯	ミルトン コウマス	小形 上製	一八二頁 ポイント字假名付	定價 一.〇〇 送料 .〇六	第三版	處女の貞操と惡魔の誘惑を主材とせる金玉の劇詩 卷頭寫眞 ミルトン
野邊地天馬著 平井武雄畫	舊約物語	四六判 上製	三六二頁 大字カナ付	定價 一.七〇 送料 .一〇	第六版	一般家庭に盛んに愛讀せらるゝ――兒童。
野邊地天馬著 南薫造畫	新約物語	四六判 上製	三六八頁 大字カナ付	定價 一.七〇 送料 .一〇	第五版	聖書――各書とも美麗なる原色版畫九枚を挿入す

發行所 東京市麴町三丁目 振替東京七八四七 丁未(ていび)出版社 電話九段六六〇 出版書目進呈

第十九卷 第六號

女子青年界目次

大正十一年六月號


この一滴
頭の輕快と清香を保證し
毛の眞黑と豐滿を誓ふて
年年の梅雨期に婦人を悩す
毛髪の苦勞を一掃する
千金よりも尊い――香水代用
千代田香油
名譽大賞金牌受領
東京日本橋區
馬喰町四
山岸三之助
電浪三七九三
振東二〇五〇〇

東京上野に於ける平和博覽會第二會場の外國館の敷地內に日本基督敎女子靑年會は**婦人無料休憩所**を設置しました。諸女學校から團體なり、個人なりで見物に御遊來の姉妹方は是非御立寄り御休息下さい、又御友人方にも御紹介下さい。番茶は何時でも湧いて居りますし、御氣分でもお惡るい時は應急の藥は備付てありますから、御手紙でもおかきなさるには紙は無代でさし上ますから御遠慮なく御使ひ下さい、御問合せにも出來る丈は應じます設備をしてゐます。紅茶とお菓子は風味のよいのがあり決して外より高價ではありませんからお試し下さる樣に願ひます。

池の端外國館別館出口

日本基督女子靑年會

婦人休憩所


紳士の髭剃に
カテイ石鹸
安全剃刀
クラブ洗粉
クラブゼリー
眉目清秀
クラブ歯磨
THE IMPERIAL LTD
CLUB
CREAM
品質の優秀は
米國品以上！
口當りの爽快
は天下一品！

女子青年界 第十九卷第六號 大正十一年六月一日發行

會説

今の時を辨へ得るや

河井道子

「イエスまた衆々に曰けるは雲の西より起るを見ば直ちに雨ふらんと爾曹いふ、果して然り、南より風ふけば暑からんと爾曹いふ果して然り、僞善者よ天地の色象を別つことを知りて此時を別ち能はざるは何ぞや」

海邊又は山地に住んで居る者は雲の形狀や朝夕の空模樣で天候を見別けることは晴雨計のやうであります、ユダヤ人は地中海の空色を絶えず眺め又其國境にある連山に出沒する太陽や月の色合に於て天氣を見ることが非常に上手でありました。それで主イエスは自分の周圍をとりかこんで居る人々に、晴雨の判斷が出來ても時勢を見る眼がないことを詰問されたのであります。この數句を熟讀致しますならば此はたゞに當時ユダヤ人に申された言葉でなく、現代の我國民又私共自身に對する警言ではありますまいか、昨今の新聞は何をあらはして居りませう。五月十六日發行の某新聞の社會記事紙面一頁内に十一件の犯罪と自殺とが載つて居ります。これは何を表してゐますか。春は自殺の多い時である、血腥い事件の起り易い時である精神上異狀を來し易い時であると時候と心理作用とを結びつけて學者達は説明して居ります。又社會研究家は、夏は放逸淫猥の氣分

を盛んにする時季であり、秋は厭世思想行爲をうみ出し、冬は窃盜を増すと申します、たしかにこれは百姓や漁夫が空模様を見て嵐の晴のといふ如く、社會の狀態を春夏秋冬の背景より判斷したのであります。

これと又同じやうに道學者は青春期は危險である中年の不品行は矯正の道がない。高官になると收賄事件を惹起し易い、老年は保守的で猜疑心が深いなどゝいふてますがこれも天候判斷によく似て居りませう。かく世人は時候と生理、或は年齡と其傾向などには非常に聰明であつても、イエスキリストはなぜ今の時を別つ能はざるかと問はれるのでせう。

今といふこの言葉に随分さまぐ\の解釋が起ります、政治界、敎育界、經濟界、婦人界の今は何を表して居りませう。一言でいへば惱みと不安ではありますまいか、社會は個人に依つて成立つてゐるものとせば此のゆきつまつた社會は個人々々の安定なきことを語つて居るのであります。これは恰も嵐の中に小舟が漂ひ乘客が狼狽ふためく樣に似て居ります彼等の舟中の騷ぎが外部の嵐よりも以上に舟を動搖させ遂に顚覆させるのではありますまいか、かゝる中に心に疚しいところなく、充分に働いた後正直な疲勞を感じ、次の活動のため力を養はんと船中に安眠して居る者があるとするならば世間は其人を何と申しませう。又同じく寢て居るにも或者は其不安を鈍らせるため泥醉して居る者もありますが彼と是とはもとより天地の差であります、昔ガリラヤの湖に於てキリストが暴雨風の最中船の中に於て安眠された時の弟子達の狼狽かた、キリストを恨んだ樣子などが彷彿としてをります。私共は今と云ふ時を理解してをりましようか。パウロの如く「我等は時を知れり今は眠より醒むべき時なり」と申されませうか、實業家は不景氣をとなへ何處まで落るかわからないと申ます、生活難の爲に自殺する者、人を殺す者の多い事を新聞は毎日報導致しますにも拘らず、一、二を爭ふ呉服店や御殿の如き娛樂場が益々繁昌

するのは何によるのでありませう、肉林酒海にはいよ／＼群衆が蝟集し浪費の額は益々上る傾向を示して居ります肉欲を滿足させるところのものは不景氣の風を知りません。奢侈華美の度は速力を增しつゝあります、彼等のうちでは生活難を伽噺に取扱て居ります。それならば是等の人等は至極幸福で平和の空氣に包まれ喜樂に滿たされて生活して居るかと云へば、不義不德の罠にかゝつて逃るゝ道なき狀態であります。精神異狀者は貧富貴賤の區別なく實に夥しく增加して社會を中毒して居ります。

婦人界の活動の一として此頃の流行はダンスの奬勵であります。是もとより惡い事ではありません。衆樂手段の缺乏してゐる社交界はダンスを歡迎するも無理なき事と思ひます。然しながら男女は相互に人格を尊敬する考なくして只享樂に耽けるが爲、或は華美な服裝をせんが爲、或は異性の歡心を買はんための分子が少しも此流行中にないと誰か明言出來ませう、而も藝者風情の者が盛に是を習ふて、益々と社交界の主人公の如く擧動ふ樣になりつゝあるは何を意味しますか。此度は眞目面な方向に目を轉じてみるに、現今の婦人集合團は如何です、其會が組織されるや日尙淺い内に暗鬪が起るとか、內輪揉で解散とか、さもなくば有名無實で十年一日の如しと云ふ有樣ではありませんか、若木が成長繁茂しつゝある如き自然的な健全な發育を遂げつゝある婦人會は全國に幾つありましようか、實に淋しい冬枯の景色を呈して居ります。以上は何も女に限つたものではありませんが、社會一般の今はたしかに、這麼樣子であることを一般が認めて居ります。學校や敎會內にも此空氣は漲つゝあると申しても過言ではありますまい。

此場合に於て我等は時を知れり、今は寢より醒むべき時なりと奮起する丈の覺醒と勇氣とが私共にありましようか、此は私共の內には皆無です、滔々たる社會の潮流に溯る丈の氣力と信仰とはキリストより注がれねば、內からは湧きません。それで何故現

代の思想も物質化され、生活も唯物主義にのみ走るかをよく考へますと、其は人々が何かを求め、渇望して居る證據ではありますまいか、彼等が不安で堪えられぬので、何を得んとするも、其何かを得ることが出來ぬ結果、終に物質にのみ依賴する樣になつて來たと思はれます。元より其中には、何も考へず水の低につく如く。努力をしないで無抵抗で易々と行ける方へ、引き入れらるゝ者もありますが、少しく考へる者には斯る平凡さでは滿足をしません。何かを求めて、得られないとか、失望したとか、追求心が缺乏してゐたとかで此物質に沈溺する青年男女が多いとおもひます。生死共に唯物視することは基督者のせざる處で、生も死も靈化するが、キリストの道であります。これさへ得會出來れば罪の子を孕むとか、自殺するとか、精神に異狀をきたすとかは斷じてありません。唯に生死だけでなく、金も位も病氣も貧乏も凡てを靈化するのが、キリストの力であります。此力さへあれば、潮流に溯つて疲勞せざるのみならず、其金力で人を救ける事さへも出來るのであります。

世は何かを追求して居ります、彼等は氣付かずしてキリストを追求して居るのであります「僞善者よ汝は此時を辨えざるか」と凡ての信徒に向つてキリストの御叱りがある樣に感じます。姉妹方の周圍の友人は何を求めて居るか、彼等が泣くは、笑ふは、戀愛に陷るは、病氣するは何を表して居るのであるか、其心中に同情をよせ、キリストを救主とし、友とし、慰主として友人等を導くが今の時であります私共は寢より起きて、主と共に働きましよふ、そうして、人々が不景氣、生活難、精神異狀が今の時節と申せば、私共は其に反對して「今は惠の時なり今は救の時なり」と絶叫したいではありませんか。

青春期は惠の時期、救の時期であると同時に、一步踏まちがへば呪の時期、己と他を亡ぼす時期であります。斯る危機一髪に立ちて、一方はキリスト化すると、一方は物質化するとによりて、正反對に進むのであります、春夏秋冬に罪を歸せず四季其々の美殊恩惠を感謝して愈々高き美しき人格を築き度いのが私共の祈であります。

愛は惜しみなく赦す

—馬太十八、二十一—

村岸清彦

イエスは言はれた、「七度を七十倍せよ」と。愛はまこと、惜しみなく赦す心ではないでせうか。誰やらが「踏まれても咲くたんぽゝの笑顔かな」などゝ歌つた心持を尊く思ひます。

一

「主よ、幾度まで我兄弟の、我に罪を犯すを赦すべきか、七度までか」とは、同胞から理由なくて受けた嫉視や反目や憎惡やと、惱み悶え苦しみぬいた末イエスの博大な心持に立つて赦さうとして告白したペテロの言です。尤も「七度までか」と問ふた位ですから、徹底した赦しの心持を摑んでは居なかつたでせうが、併し當時の敎法師が「三度までは他人の罪を赦せ」と敎へたのに比してかなり深味があると言へませう。とはいふものゝ「赦し」に三度とか七度とかいふ人間的な制限を附する事は、果してどういふものでせう。

二

どんな嘲笑や迫害や冷遇や、否生命に加へられる危害に對してさへ、憎惡や敵對や復讐の心持で向はず却てそれを「憫れむ心」と「赦す心」とを以て祝福に換へやうとするのが、イエスの心でありました。寔、イエスに於ては「赦す」事を除いては他に「救ひ」を垂れる道はなかつた樣です。つまりは、赦しが救ひであり、赦す心が人の罪を救ふのだと言ふてよい

でせう。

併しこゝに注意ねせばならぬ一つの事があります。それは「もし一日に七度罪を汝に犯して、七度悔ゆと言はゞ赦すべし」といふルカ傳の傳へて居るイエスの語です。悔ひたなら赦せです。一寸佛教風に考へれば、悔ひずとも赦すが一層深い様にも看れませう。しかし、イエスの語は、明らかに悔ひたら赦せです。イエスがこゝに引かれた比喩中の王も、もし臣が哀願しなかつたら赦さなかつたに相違ありません。この比喩中では、間違なく謝罪が、赦免の先行條件になつて居ます。

三

なぜ人は、謝罪なしに赦す事が出來ないのでせう否なぜにイエスともあらう人が、「悔ひなば赦せ」といふ様な制限を設けたのでせう。私は思ひます。「赦さんとする心」があつても、「赦されんとする心」がなくては「赦し」は「救ひ」にはならぬからだと、生命は只生命とのみ相交らふものです。「赦さんとする心」と、「赦されんとする心」とが相合致して、神の「親心」と、人の「子心」とが結ばれ合ふのです。

親ですもの、如何に罪深い子とは言へ、それを心底から憎めるものではありますまい。まして不具な子程可愛いのは至情ではないでせうか。まことに親の心は愛兒の罪を直視し燒かれる様な心の苦しみを經驗し乍らも、これを赦して居るのです。親の愛は既に兒を赦して居るのです。にも係らず、兒が自己の罪を認め、心からの謝罪をせぬ迄は、親はその憐れみと赦しとを具表するわけには行かないではありませんか。

「神は愛だから、謝罪せずとも救ふ筈である」などゝ言ふ考へは、まことに横着千萬な話であり、少くとも餘りに、甘へ過ぎた駄々兒の心持であると思ひます。

だからイエスの「七度を七十倍して赦せ」ば、「一日に七度罪を悔ゆと言はゞ」を前提としての赦しで

ある事を忘れてはならないのです。而してこゝに眞宗の赦しとイエスの赦しとに差別ある事も、考へておく必要がありませう。

四

さて私達は、人に對して「惜しみなく赦す人」でなくてはなりませぬ。何故なら、私達は既に神から惜しみなく赦された」者だからです。イエスの比喩はよくこの點を暗示して居ると思ひます。

他人が自分に罪を犯した場合に、自分の人格が汚穢されたり毀損されたりした事に對して「人格擁護の權利」を主張する事は當然でせう。然し注意すべき點は、「私達が神に對しては宥恕を强要」、他人に對してのみ酷な權利の主張をする事は、宗教生活上の大矛盾だといふ事です。

私達は幾度「主の祈り」の中の、「我等に罪を犯す者を我等が赦す如く、我等の罪をも赦し給へ」と誦じて居た事でせう。此上この言葉を一種呪化してはなりませぬ。再びイエスは言はれます、「心より兄弟を赦さずば――」と。

五

あゝ反目と爭鬪と、嫉妬と排斥と呪咀と陷穽と詭計とに充てる私達が、「悔ゆとの至情の發露を見て、互ひに赦し合ひ、兄弟として姉妹として唯一つの靈に貫かれて生きる程尊い事がありませうか。イエスのは赦し合ふ宗教です。而して「悔ゆる心」も「赦す心」も、皆私達と天父(神)との關係から流出するのです。

「惜しみなく赦す心」は、私達の心が天父の眞情に觸れて感應しさへすれば、不思議に、さうです、不可思議に其の心のどん底から湧いて來る力なのですそこは最早、「惜しみなく赦す世界」ではなく、「惜しみなく赦さして貰ふ世界」といふべきでせう。本當に心より他人を赦し得る體驗に生きたいものです。そこは又何といふ「住家多き世界」でありませう。

(以上說教大意)

支那内地巡回訪問記

志立ヤナ子

四月四日から九日迄の北京に於る萬國基督教學生大會は、九日夜の禮拜を以つて終り、各代表は各々その地に向つて歸途に就いたが、外國代表の約六十名と中國代表の小數とは更に七組のインターナショナルティームを作つて學生同盟から派遣せられ、支那內地の學生の中心地を巡回訪問することゝなつた

その目的は、青年學生及び一般の人に基督教の精神を傳へ、北京大會での收穫、各國に於る基督教學生の有様を知らせる事にあつた。

南支那に向つたティームの中に長沙、九江、南昌を目的地とした一組が出來、十一名の各國代表が指名された。十三日まで北京で準備や打合せに費し、同夜北京發の列車で南に向つて出發した。以下日記體にその大體を記す。

四月十三日夜十一時北京發。

朝出發の筈であつたが汽車の都合で夜になり我々一行十一人は、太原府方面へ行く連中と共に出發、我々の爲に特別の寢臺車が連結されて居た。

一行は北米エール大學教授ラトレット博士を隊長として、カナダ一人、スコットランド一人、オランダ二人、オーストラリア二人、インド一人、スウェーデン一人、日本二人と云ふ顔振、八ケ國の男女が集つた汽車の中は賑かであつた。

十四日

終日汽車の中。時々南から兵隊を送る列車を待つ爲停車場に三十分、一時間と停る。吳軍が北の方へやつて來るとか、鄭州の附近で戰爭が起つたとか、黃河から向ふに汽車が行かないとか、色んな噂が誰云ふとなく車中に擴まる。唯時々停車場に待たされるだけで、汽車は南へ、南へと下り、黃河も渡り、鄭州も無事通過した。

十五日

豫定に遲るゝ事六時間、午後三時過漢口着。直ちに楊子江を渡り、對岸武昌から再び汽車に乘り、午後五時長沙に向つて出發。やはり特別の箱をつけてくれた。各停車塲には澤山の兵士が鐵砲を持つて立つて居る。戰雲は益々濃厚になつて來た樣だ、然し汽車の中は益々平和、老人も若い者も、男も女も皆子供らしく騷いで居る。

十六日

復活祭の當日、簡單な祈禱でこの日を祝ひ、色んな話をして居る中に長沙に着く、午前十一時、豫定に遲るゝ事四時間。各宿として定められた學校、宣敎師の宅に分れた。

香港　上海を見て居た我々は北京に來て始めて支那の町を見た樣に思つて居たが、長沙の町を一見する迄は本當の支那と云ふものを知らなかつたのだと思ふ。停車塲前に群つた人力車苦力の騷しい聲を聞きながら、車に乘つて走り出したのはいゝが、何處まで行つても裏町の樣な狹い通り、加ふるに汚物の臭氣、一輪車の軋る音、人の聲、一として好感を與へるものはない。人力車がすれ違ふことが出來ない位狹い道は、石が敷つめてあると云へば美しく聞えるが、二寸に三寸位の石塊が凹凸雜然と並べられて居るのだからたまらない。鐵輪の車の、座蒲團のない座席の客こそいゝ迷惑、走るにつれて右に搖られ左に傾き、その不快さは到底想像が出來まい。然し町が汚い、車が痛いと小言は云ふものゝ、長沙の人力車苦力達の純朴なのを嬉しかつた。來て住むならやつぱりこんな純粹の支那町がいゝ。

午後から早速プログラムに從つて活動。渡されたプログラムを次に掲げる。

四月十六日　日曜日

午後三時　男子靑年會及女子靑年會

同　五時　夕陽會

同　七時　支那基督敎徒會

四月十七日　月曜日

午前九時　基督敎指導者會

午後三時　學生集會
午後七時　傳道者會
四月十八日　火曜日
午前九時　基督教指導者會
同　八時　聯合傳道教會
同十一時　支那基督教徒會
午後二時　ノールウエー人教會及米國人教會に於て婦人會
午後四時　知事よりの招待會
午後七時　男子青年會有職者會及基督教學生會

三日間、朝から晩迄少しの休みもなく色々の會を開いて、一行は各所に分れて話をした。會と會とを連絡するのは例の不愉快な人力車である。でも、慣れるに從ひ、不快の念も不思議な位、緩和された。プログラムは次から次へと進んで、見物の暇は勿論休憩の暇すらなかなか見出せない。時間があれば眠りたい。

基督教徒以外の學生の爲に計畫されて居た大きい會合は、反基督教運動の影響を受けて、取消されたさうだが忙しい集會の何れにもかなり聽衆があつた。中國でも新思想の源泉地と呼ばれ、女子運動の先驅をなして居ると聞いた長沙の青年達に、我々の仕事がどんな影響を與へたか、短い、忙しい日の間に聞いて見る機會も無かつた。然し、最後の學生の爲の集會等、勿論、聽衆の多くは基督者であつた、なかなか澤山集つて廣い會堂に滿ちて居た。演說者に向つて質問をした學生もかなりあつた。古い支那と新しい支那との思想の懸隔を興味あることに思つた

十九日

朝少しの暇を見付けて、日本領事館に領事を訪ねた。新聞で我々の來た事を知つて居た領事は歡迎してくれた。商人、軍人、官吏を通してのみ長沙の人々に知られて居る日本が、時間は短く、人は少かつたが別の方面で紹介された事を喜ぶと云ふ様な言葉が、その話の中にあつた。

忙しいプログラムを終り。午後四時三十分再び汽

車に乘つて長沙を去る。戰爭の噂は例により益々盛になつた。列車ボーイの話によると、沿線のどこかで既に戰爭が始つたさうだ。今夜は兵隊が押寄せて來るかも知れないなど、脅す。各人の名刺を集めて萬一の時の用意をして置くがいゝと云ふ注意をうけその準備をした。各停車場の守備兵は前回の時よりその數を增して居る。夜になり處々に夜營の篝火が見える。内心小々恐をなして居る連中は、今夜は不寢番を作つて、兵隊が來た時の交涉役を務めるが好いと提議し出した。遂々オーストラリア人二人がこの大役を引受ける、他の者は各寢臺に入つた。夜中處々に長時間の停車を餘儀なくされた（兵隊が列車内を檢查する爲）が、幸に我々の方には何の影響なく、不安な一夜は明けた。

　長沙の記事を終るに當り、特記しなければならない事は、この町の基督教である。米國、英國、小數の獨逸から來た宣教師達の努力は大したものである約百名の外國宣教師は、或は學校を經營し、或は病院を開き、或は教會を牧して中國人民の文化的開發に努力して居る。湖南省と云へば最近大饑饉の爲、多數の窮民を出して居るが、宣教師達はこれが爲に湖南華洋籌賑會と云ふ會を組織して救濟に努めて居る。之に對し、日本人として關係のあるのは僅に領事位のものである。政治的に、商業上に、多少の關係があつても精神的に沒交涉の日本は彼等、長沙の人にとつて、果してどれ丈の關係があるのだらうか

廿日

　またも三時間遲れて午前十時武昌着、十一時漢口發の汽船に乘る爲急いで楊子江を渡つたが、折柄の驟雨で荷物の運搬に暇取り汽船に乘遲れた、翌朝迄船が出ないのを幸に旅行に疲れた身體をホテルに運ぶ。漢口には他のティームが來る筈になつて居る爲我々は爲る事がない。一日を休養に費す。

廿一日

　雨は晴れて絶好の天氣、十數日前の北京地方の氣候と全く異り漢口はもう初夏の空、綠の葉陰から紅

の花が見えて居る租界地は、その建築物、その道路道行く人、皆印度地方の植民地を思出させる。

十時、楊子江を下る船に乗る。長沙及び漢口に四人の同勢を殘した、一行は七名になつて居た。でも國籍から云へば五ケ國である。大分長い旅行を續けた一行はもう全く親しくなつて、旅行は益々愉快になつて來た。汽車と異り廣い船の中では又一層賑かである。星の輝いた、靜かな夜の楊子江の舟航は又格別である。甲板の籐椅子に横になつて空を見て居ると聞えるのは只船の進む音ばかり。

廿二日

早朝九江着、上陸直ちに停車場に向ひ南昌行の汽車に乘込む。巡査や軍人がやつて來て、日本人は旅劵がなければ乘車できないと云ふ。迎に來て居た西洋人が中に入つて種々説明し、やつと納得させたと思ふと又他の連中がやつて來て同じ樣な面倒を云ふ或は年を聞き、或は旅行の目的を聞く、先の外國人が保證すると云ふ事になつてやつと立去る、暫くすると又他の連中が來る、發車を待つ二三十分間に、合計五組の巡査や檢査官がやつて來たが、同じ樣な事を聞かれ同じ樣な事を答へ、五枚の名刺を渡してやつと出發する事になる。この鐵道は日本人の投資によつて出來たものとか、箱は神戸の川崎で造つたものだとマークによつて知つた。

四時南昌着、宿と定められた宣教師の家に行き、夕の食卓に落付く暇もなく七時半からの青年會の集會に行き、各代表が話す。南昌でのプログラムは

四月廿二日　土曜日

午後七時　國際親交の夕男子青年館

四月廿三日　日曜日

午前九時　知事訪問

午前十時　教育會

午前十一時　各種教會

午後三時　學生の爲の講演

午後七時　基督教徒及教役者會

四月廿四日　月曜日

午前十時　ボールディン及セントマシュー學校
午前十一時十五分　南昌專門學校
午後七時　質問及討議會

四月廿五日　火曜日

午前見物正午コー博士の病院にて晝餐

南昌でも亦忙しいプログラムが續いた。反基督教運動の最も盛な地方の一として此處でも官立學校生徒の爲の集會を中止すべく餘儀なくされた。それでも三日目の質問會には約千名の青年が狹い青年會の會場に押寄せて、隨分種々の質問をした。官立學校の學生で、反基督教運動のリーダーと目せられて居る學生も盛に質問をして居た。

廿六日

午前十時半南昌發、午後四時再び九江着、直ちに南偉烈大學へ赴く。夜女子聖書學院で男女學生の集會があり、例の通り各國代表の演説があつた。

廿七日

朝、南偉烈大學の禮拜に出席、數名の話があつた之で我々の仕事は終つた。正午發の汽船で上海に向ふ。我々は重い責任を濟せた喜びと、心安さとで一層快活に、無邪氣に騷ぎ出した。

廿九日

朝上海着、中華民國青年會同盟から、今夜我々の爲に慰勞會兼送別會を開くとの通知があつたので、一と先ホテルに落付き、六時半會場に行く。集つた者は各國代表と主人側の中國人とを併せて約三百名歌や音樂の中に支那料理を食す。食後各國を代表して四五名の話があり、最後にモット博士の話を以つて閉會した。十三日から今日迄、長い間の種々の出來事を思出しながら、ホテルに歸つたのは十一時過であつた。

世界の旅路より歸りて日本婦人に望む

鶴見祐輔

私は一個の遊子として、三年の間歐米を放浪して居りました。別に專門に研究も致さなかつた。只亞米利加、英吉利、佛蘭西の國民性を知りたいと思つて努力した。其の國民性は其の三大國の都たる紐育倫敦、巴里に於てよく表はれて居る。そこで私は此三都會を色々の方面から比較研究して見た。三都物語と申す書物にして近々出版する手筈になつて居ります。

米國人の生活は一言にして申せば單調である。從つて長く居る間には疲れる。倫敦は同じ英語國民の都であり乍ら紐育の生活とは打つて變つて複雜である。衣食住から政治文藝思想皆違ふ。處が巴里に行くと更に別天地の感がする。巴里で第一に人の感じるのは「美しい」と言ふ事である。丁度日本ならば京都邊りで感じるそれである。殊に文藝繪畫に趣味のある方々は、一層身に泌々とそれを感じるのでありませう。此巴里の美しさは言葉では表はし難い。それは大氣に磅礴する一味の情調である。何人も一度は巴里に往きたいと思つてゐる。或人の言葉に總ての人は二つの國を持つ。一つは自國で今一つは佛蘭西であると、之は巴里に對する人類の憧憬慕望の情を言ひ表はした言葉である。

これにくらべて、外國人が日本（此の變りつゝある）へ來て皆が皆愉快に感じて居るであらうか？甚だ疑しい。然るに此のパリーだけ常に同じ感じのする理由如何。それはナポレオン三世が自分が此のフランスの王様となるには、先づパリーの都をきれいにすべきであると氣が着いて自分の王位を永く續け

る爲めに全力を盡して此都を奇麗にしたお蔭からである。巴里の都を飾ることに依つてナポレオン三世が自分が此のフランスの王様となるには先づパリーの都を奇麗にすべきであると氣が着いて、自分の王位を永く續ける爲めに全力を盡して此都をきれいにしたお蔭からである。巴里の都を飾ることに依つてナポレオン三世の王位が二十年も續いたと言ふ處に味はふべき人間性が顯はれて居る。

米國のワシントン市は如何であるか。ウキルソン大統領となりてから、宴會を少も行はず爲に人氣が惡るかつた。ウキルソンが大統領となつてからは町の並木の枝振り迄惡くなり町がきたなくなつたと言はれた。米國ですら都市の美觀が政治家の人氣にさわつた。ワシントン市はアメリカにとつては巴里程大事でない。

佛人は繪、政治、文學何でも巴里を中心としてする、それでパリーを立派にし樣とする。政府も巴里人の日常生治に重きを置いて居る。佛蘭西人の美術思想、愛國心がそのまゝ此都に現はれて居る。故にパリーが非常に國民の注意をあつめるのである。

シャンゼリーゼーの凱旋門はナポレオン大帝の終焉の日には、丁度凱旋門の間に夕陽が靜に沈むやうに建てられて居る。其の美しい夕陽や夕雲を今もそのまゝの凱旋門の彼方に仰ぐと巴里は美しい町であると言ふ感じが泌々せられる。巴里の家には亞米利加の樣に規帳面にきめたものでなく、一軒々々が皆異る形をして居る。少し歩くと町の形が變つて行く凱旋門にしても四方から見て皆其の形がちがふ。四方とも邊りとの調和を感じよく計つてある。パリーは趣味が隅々迄行き渡つて居る。それは美の都で美しく育つた故であらふ。

巴里の特色は、貧乏人の都であると言ふことである。十五、六世紀の昔のまゝの型の森林が氣持よく茂つて居り、どんな貧乏人でも一歩屋外にふみ出した時は皆と同樣に此の青々とした、森林を樂しむ事が出來る。それが日本に於ては公德心がない。此の

美しい日本の山河をより美しき都としやうと言ふ考へがない。其の證據には周圍の家との傾斜の具合色の具合などゝ言ふ様な事を考に入れて家を建てる人は見られないのである。佛蘭西ではある金持の家等門の前は芝生だ、それも單に亞米利加邊りの樣に平坦くのんべりと植えるのでなく、それに人の目に感じのよい様な傾斜をつけるとか植木のうゑ方すべてに心をくばつて、それが單に自家の爲ばかりでなく、四方の家との調和は皆とれて居る様に苦心する。私は其心持の裡に佛蘭西國民の優越性を發見する。それはたゞに佛蘭西人が偉いばかりでなく此の點に於ては神様が少しフランスにひいきし過ぎてゐらつしやるのかも知れないと思つた。それは佛ではマロニエの花がシャンゼリゼーの町に咲く時からずつと八月迄も木々が新緑のまゝで居る。そして幹が黒く葉が薄すみどりでこれに美しい具合に配合したうす白い家が木蔭からちら〳〵見える。凡て五官から入つて來るものが皆氣持がよい。嘗つて獨逸の名高い音樂家が日本へ來て不愉快に感じたのは雜音だと言つた。佛蘭西人が感じた事は「近代日本」と言ふ本にこう書いてある。

「日本人は目も、舌も、耳もよいらしい、而しどうも鼻は確に惡い」と。

パリーの美はたゞに家の調和、景色のみでない、商店に於て氣持よく感じるのは實にそのきれいな事である。シャンゼリゼーのある自動車屋の店飾りを見ると、其處の床は水ですつかり洒掃してあつて、そこに一臺のそれこそ洗ひたての樣なきれいな自動車が置いてあつた。あまり奇麗いなので商賣になるかと思ふ樣であつた。今一つは香水等うる店で、これも實に一歩足ふみ入れて愉快に思ふのである。つひつり込まれて種々買つて見る氣になるアメリカで買物をすると直ぐたゝみかけて "What next ?" (何か外に) と言はれるので何だか叱かられる樣に落ついてゐられない樣な感じをさせられた。

生活自身は如何であるか。佛蘭西人の生活自身が

果して我々他國からの旅行者が見る如き幸福なものであるかと言ふ問題であります。芝居の事を少しお話し致しませう。此國のオペラは非常に立派なものである。役者達も皆國家が養成したものである。オデオン座の役者の言つた言葉でその國の言葉がきまる程オデオン座は大切である。人々はオデオン座の役者の發音を學ぶ事にする。佛蘭西語の定まるのが芝居であるから國民がこれを大切にする。芝居は美術館や、音樂會のやうに大きな影響を國民に及ぼすのである。

有島さんの「或の女」について先日有島君と話したのでありますが美と言ふものは何かと言ふことに就ては時代によりて變る、從來女は低い位置、ひどく言へば奴隷的位置に居つた。そして是を男も女も怪しまなかつた。近頃になつてそれがおかしい、惡いと思ひ始めた。思ふに今迄女の人の心の中に、男の我儘を憤る心が潜んで居つた。從つて男に對して反逆しやうと言ふ心持が凡ての女の心中にあつた。而し又一方では、男をなつかしく思ふ心がある。この二つの心の矛盾と爭鬪とが強い性格の女には著しく現れる。そこを「或る女」に現したと有島君が申して居りましたが大變面白い話であると思ふ。

私は佛蘭西を全部的に謳歌するものではない。佛蘭西人は美術心に富み、情に厚いとほめる人がある併し佛蘭西の婦人が果して涙無しに生活して居るかを私は疑ふ。さて次に少し芝居のお話を致します。ロンドンでブリユーラグーン(青い沼)を見た。次にゴーズウォージーのスキンゲームを見た(中略)此等のロンドンの芝居は非常に考へさせられるそしてこれは大變に面白い。

今度の歐洲戰爭に於て文明がどれ丈け逆轉したかわからぬ。英吉利は兵糧責めで獨逸を苦しめ、獨は潜航艇、毒瓦斯あらゆる武器をもつて英吉利其他を苦しめた。かくて兩國とも戰爭法規を無視して慘酷な人殺しをした。其戰の濟んだ今日子供達・病人達がどんな哀れな有様で居るか。

大喧嘩の後で兩國共ひどくいたんでしまつて居る且つ大きな人殺しをして果して何の得る所があつたか、戰爭の如何に馬鹿々々しいものであるかゞ今度の大戰で益々明瞭になつた。

人類全體が今日の狀態、今日の世態の中から、もつとよい世の中を造らふと言ふ苦しい瀨戸ぎわに立つて居る。それから拔け出るには、どうしても大勢の民衆が解放せられ、世の中の政治、外交、經濟一切に亘つて一大革新が起らなければなりませぬ。

國と國との慾が現はれ戰爭となる。これを止める人間の智慧は進んで居ないが人間を破壞する力は大層進んだ。

過日サンガー夫人に逢ひました時に自分は日本人が產兒制限說を受け入れ得ぬ理由を思つた通り遠慮なく話した。此世界の大部分は白色人の爲に占領されて居る、そして黃色人種たる東洋人は白人の國から故なく排斥せられて居る。此問題が解決せられぬ間は東洋人は自己の生存を力を以て防禦すると言ふ思想から脫却することは出來ない。故に產兒制限と言ふ問題は、どうしても世界平和と言ふ問題と相携へて進まなくては出來ない。是れは世界にどうしても戰の起りにくゝなつた時でなくては出來ないと私は申した。其の平和運動の爲めにはどうしても婦人が覺醒して非慘な原因を引起す戰を止めさせるやうに眞劍な努力をして下さらなければ駄目である

第一に各國の人が自分の國の事ばかり考へないで他の國の事も考へて見ねばならぬ。即ち國際精神と申すものが起つて來なくてはいけない。

第二に或る小數の人が勝手に戰爭をしやうとする時多數の人がとめる力を出さなくてはならぬ。それはつまり婦人の力である夫、小供を殺すのはいやだいけない事だと、多くの婦人が奮ひ立つならば戰は出來ぬ筈である。

日本は今各方面から見て、あぶない地位に立つて居ります。日本には佛蘭西の樣に文化に對する眞實の憧憬もなく、亞米利加に較べて堅實さがない。そして婦人は此のあぶない國の危機を救ふ爲めには、自分達を幸福にする政治をしてもらふ爲に婦人の低い位置を高める爲めに無意味な戰をやめる爲めに餘程の決心を以て努力して頂かなくてはならない。婦人がいつ迄も若さをたもち社會にも出て働き、人間が人間らしく住む社會を作るには男も一生懸命にやらねばならぬが、婦人の方達もやつぱり一心にやつて頂かなくてはならぬ。（講演筆記）

協力一致

ドクターモット

近代の最も特徴と見るべき勢力は、基督教團隊が一致統一の傾向である。此協力調和運動は過去三十年間に於て長足の進歩をなして居る。而も此協力一致の精神は種々の事情の下に切れ〲になつて居たが近來一つに成り得た事である。洋の東西を問はず北米に南米に支那に亞佛利加に其他の國々に於て各敎會の聯盟が地方々々に成立し、凡ての古きものは去つて物皆が改まらんとして居るのである。これは魔術ではない唯思慮ある人々が、新しい人々が今日の世界が根本より改造されんとして居る事を自覺して居るからである。何によつて協同の道が開かれねばならぬか、イエスキリストを一つの道として、偉大の人格を現し變りつゝある人々の中にキリストの理想によつて世界を化すことである。而して一個人では夢である衆と共にすゝのでなければ實現はされぬ。

今日は實に困難の時代である。經濟的變化は著しく、經費は膨脹して居る故に浪費のないやうに凡ての經費を最もつめて用ひねばならぬ。ゼノア會議の行詰り、經費は八十萬から八百億に膨れて居る誰も是を頭の中で定める事が出來ぬ。而してこれは各々の傳導會社が行き詰つて居ることを敎へて居る。經濟狀態の困難は宗敎界のみならず實業界に於ても甚しい、こゝに於て第一義は何かと言ふ事を考へなければならぬ。凡ての人はかく言ふ私は何かし度いと願はるゝ凡ての物は出來ぬ何にせんかとこれは有難

い事である、各自が第一義に歩んで而して此間を如何にして合はして行くべきかに力をそゝぐべきである。今や新しい種々の最善の努力すべき問題があるこれは協力一致しお互が相助けることによつてのみ成就するものである。

　信教の自由の爲に戰ふ必要がある。是が爲には基督者は一致して强い戰をすることが出來る。基督敎々育について考ふるも吾々が一致して其の進歩を計らねばならぬ。協力一致のみが全きものである。吾らがキリスに對する信仰にかてゝ加へてキリスチヤンとして立つべき時が來た。

　全世界が溶けて今や凝まらんとして居る。壁のセメントの如くかたまつて來るのである。新しい世界は如何形に凝るか、軍國主義、唯物主義、利己主義のものにか、理想主義の協力一致で奉仕の生活に凝まつて來るか、キリストの敎は完全なる答を與ふるものである。キリストの力を滿月の如くするには協力一致がなければならぬ、基督は何處にもまだ完全なる現れを示し給ふてない。これはあらゆる人種。敎派の合同の中に於て始めて見らるべきものである。吾々は露西亞の神秘的の宗敎により力を受ける、其他各派の長所を學び得る。故にキリスト敎徒は一つとなる事が何よりも最も大切な事である。基督敎會の歴史に於て現代ほど人々の心中に協力一致を深く感じたものはない即吾々は心を一つにし業を完全にせんとして努力をして居る。これは過去三十年間に此方面の種々の經驗、具象的現を見るのである。

　異なる人種及國家、宗派の中に協力一致を擧げる爲には犧牲が拂はれなければならぬ。指導者の頭の中に協力一致の自覺が明かでなければならぬ。然らば如何自覺か、吾々は互に枝で相互が必要なくてならぬ者なる故に相互の間に最良、最善の道が開かれて居なければならぬ。此自覺こそキリストの自覺を最も忠實に現はしたものである。此基督の主義を世界に應用するには如何にすべきであるかは各自偏見を捨てゝ研究しなければならぬ。如何なる態度を

取るべきか、我々の自分の智識など考ふる時に如何ものを神の國の中に包括すべきか、我々の情熱が何如に熱烈であるか如何に燃えるかと言ふことである。而して吾々と意見を異にして居る人々によい了解をもつて當らねばならぬ。各國民が一致するにはこれが責任者は國民である故に代表者は眞によく其團隊を代表して居るものでなければならぬ而して是れによつて成立したものは爲政者でなく相談相手者である。是が爲には少數者が時間と勞力とを與ふるものがあり而して如斯き團隊の失敗は自分一人で負ひかねるものに更に新なる仕事を與ふるからである。故に尊敬と信任とを有する人格者を選び彼等が最大努力を盡し得る爲に注意を排ふべきである。各派聯盟は主張するが、凡てのものを生かしつゝ聯盟するのである。型にはめられた統一をするのではない。それ〳〵が伸びつゝ一致するのである。これが爲には理解、同情、教へ易き質、洞察力と反應し得る力とを要するのである。各派の指導者となる爲には我々は自分の中に神の性キリストを有して居る故に、自己に最も忠實でなければならぬ。國際問題に力をつくす人は自國を愛さなければならぬ。

先見者の信者達が私財を投じて聯盟設置する基をつくる民衆的協力の勢力はつゞけて行かれやうとして居る協同事業は實に爲すに足るべきものである。而しながら是を成就する爲には組織でなく、金でなく強い力でなく、精神的にキリストに接木されたものでなければならぬ。即イエスキリストによつて協同一致を發見するのである。(在文責記者講演梗概)

平和に對する決心

國際聯盟及平和運動は英國ではなか〳〵盛であるとニーベン女史は言つて居る。スイスで二十六ヶ國の婦人代表者によつて決せられた決議を米國アーカンサスホットスプリングで開かれた女子青年會の會議に提出し決せられた事はあらゆる階級、國民、種族の間によりよき理解と平和とを增進させん爲に働いて居る諸勢力を力づけるのは吾々の爲すべき事であるといふ正しい良心を發達させて行く事によつて、社會的、國際的行道の基督教の主義を進めて行かんといふにある。ニーベン女史は英國ロンドンの萬國基督教女子青年會本部の總幹事である。

聖書研究

羅馬書講解

大阪　武本喜代藏

其一

著者と讀者　本書の著者が使徒パウロであつた事に疑ひはない、彼は十二使徒外のもので、或人々から眞の使徒でないと云はれた、そこで殊更力をこめて「召されて使徒となり」と謂つてゐる。

此書簡はコリントで書かれた、而して將さにロマに向つて出發せんとするケレクレアの女執事フイベに托してロマ教會に送られたのである、パウには未だ一度もロマの地を踏んだことはなかつた、が併しそこには已に多くの信者が出來て、パウロの親しい人達も諸方から集つてゐた、著作の年代は恐らく紀元五十八年の春であらう。

第一章

(一)緒言　(一―七)之れが書簡のアドレッスで、差出人はキリスト、イエスの奴僕、使徒、特に異邦傳道の爲めに聖別されたパウロで、受人はロマに在りて神に愛せられ、召されて聖徒となりたる凡ての者である、彼は何れの書簡にもキツトと書いてゐるやうに、「父なる神」と「主イエス、キリスト」とを殆んど同等に見て兩者より「恩惠」とそれより來る靈の「平安」とを求め、彼らを祝福してゐる。

が併し彼は一節に「福音のために」と書いたので急に思ひ出したかの如く、二節から六節迄の間に福

音の眞義を說き明した、云ふ迄もなく彼の傳ふる福音は信仰上の基督、則死して甦り給ふた永遠の神の子、主イエス、キリストの上に立てられてゐた、歷史上のイエスと、其教訓のみで彼の所謂福音は成立たぬ、神が昔より豫言者に依つて聖書の中に示し、千九百年前、親しく此地に來り、死して復活し、我らを罪と死より救ひ出し給ふ靈的キリストを信じてのみ初めて其福音は成立するのである。

(二)ロマ會の哀慕（八―一五）、當時文化の中心世界の大都市たるロマと、其教會とは不斷にパウロの胸裏を往來してゐた、彼は一度は是非往つて親しく信者達に逢ひ、彼等の信仰を堅くし、靈の賜を與へ、互ひの信仰によりて慰められんことを求めてゐたのであつたが、此書面を認めた時迄、機會なく、只「祈禱ごとに」遥かに彼等を慕ひ、思ふのみであつた。が併し彼は主より直接異邦傳道の大任を托せられてゐた、彼はギリシヤ人、則當時文化人にも、未開人にも、智者にも、愚者にも負債がある、則福音を述べ傳へねば成らぬのである、此自覺は彼をして一時も隋眠を貪つてゐることを許さない、彼の靈の躍るのは全く此責任感の故であつた、十五節に「此の故に我はロマに在る汝らにも福音を宣傳へんことを頻りに願ふなり」とは此意である。

(三)福音の本義（一六―一七）、パウロは當時世界に勝ち誇つてゐたロマ人に向つて、十字架上に耻ぢを曝らしたイエスを傳ふることを耻ぢなかつた、其理由は此福音が「凡て信ずる者に救を得さする神の力」であるからだ、若し福音が哲學や、法律や、文藝又は武力のやうなものであつたとすれば、彼はロマ人に向つて、こんな貧弱なものを宣傳すべく耻ぢたであらう、ヨシ又それが立派な宗教であつたとしても深奧の教義、莊儼の儀式、其他如何なる宗教的美觀を以てしても到底ロマ人の前に呈出する勇氣はなかつたであらう。

が併しながら福音は彼等ロマ人も、ギリシヤ人も夢想だもしなかつた或ものであつた、それは「凡て信ずる者に救を得さする神の力」であつた、ロマが三十軍團の力を有するにもせよ、彼等は救ひの力は持たなかつた、罪人の靈を根本的に改造すべく、人格を高め、良心を聖くし、全然生れ變つた神の子供

と爲すべき不思議の力、復活の力、聖靈の聖めの力は彼等の有しなかつた所である。

然るに一見此貧弱な福音、十字架の說敎の中に力があつた、人類を更生すべく、靈を活かすべき神秘力が潛んでゐた、パウロは親しくこれを實驗したものである。彼は哲學も學び、神學も學んだ併し世の如何なる學問も、藝術も彼を再生さすべき力でなかつた、然るに多年彼が輕蔑し、迫害した此福音、極力打壞はさんと努めた此十字架が不思議に彼を救ひ上げ、甦らしめた此實驗は彼をして福音の太膽なる證人、實證者たらざるを得ざらしめたのである。

福音は何故力であるか、どうして人を救ふのかと謂ふに、そは敎理や神學でなく、活ける人格だからである、活ける基督、死して甦り、父の右に座して今も我等の爲めに執成し給ふ現在のキリストが其中心であつて、彼が信ずるものを救ひ、聖め給ふからである、そこに力がある、生命がある、死せる基督史的イエスに力があるのではない、活ける、現在の個人的イエスにのみ我等を救ふ力がある。

「神の義はその福音のうちに顯はれ」則神が不義人をも義とし、罪人をも聖徒とし給ふ神よりの義が此福音の中に顯はされてゐる、神は律法に照されては到底絕望の外なき不義人をも義とすべく世に降り、十字架上に血を注ぎ、甦り給ふたのである、故に福音は神の義の現はれであり、同時に又人がそれに依りて義とせらるゝ、唯一の途である、而して凡ては信仰に依つてゐる、則「信ずる者に救を得さす」のであつて、信ぜないものをも救ふのではない、神と人間との關係は一に信仰の鎖に依つてのみ成立する信仰なくばさながら糸を切つた凧のやうに、神の絕大の犧牲も、恩惠も一切無益と成つて了ふのである信仰が何より肝要である、故に「信仰より出でゝ信仰に進ましむ」と謂はれた、則神義は信仰に依つて受けられ、保たれ、且完ふせられるとの意である。

(四)異邦人に對する神怒（一八—三二）、パウロは以下神の救を說かんとして先づ罪に對する神怒を說いた、初めは一般異邦人への神の怒り、それから更に二三章に到つて特にユダヤ人の罪惡を數へ上げて如何に彼等に對する神怒の烈しさかを說き峻嚴を極めてゐる。

絕對無條件の救、功なくして救はるゝ神の恩惠を說かんとして極力罪の惡むべき事、神の怒りと、人間の不從順とを說き、人々の汚れた內心を曝露するの必要を感ぜずにはゐられぬ。兎角人間は惠みに慣れ易い、新約の下垂る惠みと、赦罪の恩典とは、舊約の烈しき律法の鞭なくしては眞に味ひ得られないものである、此點に於てロマ書に於けるパウロの用意は頗ぶる周到である。

十八―二三迄　特別の啓示なくとも人間自然の理性と良心に依つて神は分る筈である、既に之れが分れば須らく之れを拜し、之に服從すべき筈である。然るに人間は罪と高慢のゆへに心暗く、神を拜せず又從はない、彼等は自己の不義のゆへに、明白の眞理をも否拒して、自らの不信を辯護せんとするのである、こんな人々に對して現はるゝ神の怒りは當然である。

二四―二五、自己の智に誇つて造物主を拜しないものが、却て賤むべき偶像崇拜に陷り、榮光の神を棄てゝ人及び禽獸などを拜するとは何たる矛盾であらう、併し人間の本性が何らか拜するものなくして滿足されないことを自證して餘りがある、神は人を自由の存在として造り給ふた、故に彼等が飽く迄頑固に眞理に逆ふ時、暫し之を爲すが儘に放任し給ふ實に恐るべき刑罰である。

二六―二七、宗敎的墮落はキット道德的墮落を伴ふものである、眞に拜すべきものを拜しない結果、何時しか道德的に力を失ひ、直ちに降つて男女間の亂倫腐敗と成るのは古今其趣を一にして居る、順性の用とは婦人としては人の妻と成り、一人の夫を持つことである、逆性の用はその反對で、娼となり、賣淫婦と成ることである、男子は一人の婦人を正當の妻として其分を爲すのでなく、恥づべき男色を行ふのである、偶像邪神の流行する所必らずかゝる惡淫行が伴ふて來るのは不思議ではない。

二八―三二、此に人類のあらゆる罪惡が數へ上げられた、世の如何なる義人も聖人も此らの峻儼な法庭に立つては一人も無罪の宣告を受くるものはあるまい。

法律講話

婦人と法律

岡崎應介

第五　娘の涙

青春の血胸に躍る頃には誰でも神秘な幻想に何かゝなし涙を催すものである。人知れず流す何かなしの涙が高調して結晶するとき、あのセンチメンタルな純眞聖嚴な熱涙が湧いて來る。そこに宗教が生れて來る。そこに欣求の心が翅を伸べ、戀が芽含むで來る。そこに解放が絶叫され自由が渇仰されるのである。十九歳の春を迎へたS子にも此涙が湧いて來た

舊慣を墨守した男尊女卑の家庭生活、人格を無視した盲目的な親の愛、基督教道德觀念よりせば見るに忍びぬ家庭生活の覊絆を脱し、强制的な結婚を却けて、自由の天地に逍遙し、尊い純潔な愛情を基礎とした理想的結婚がしたい、こうした切ない慾求が遂に彼女をして一大決心せしめたのであつた。再三父母に交渉したか許されないので、師と仰ぐN夫人の宅を訪れたまゝ再び吾家へ歸へることを肯じなかつたのであつた。此時S子に同情したN夫人は其儘S子を留めて保護を加へて差支ないだらうか？　廿五才以上は自由結婚も許されようがそれまでの娘の自由は如何なる程度に法律は許してるのか？　S子が其家庭を脱退することは道德上別に咎むべきではないが、一體法律は此可憐な小女の涙を何う見てるのだらう？　これからが私の天地なのであります。仍で私は次の如にお答へしませう。

S子の涙やN夫人の同情に對して、若しも法律が令酷であるならば、如斯法律は大變な時代錯誤の法律で一日も存續すべからざるを思ふのである。併しながら我が法律は幸にして此點についてはそれ程時代錯誤ではない。而して今S子の事件について述べるのに先づ親の權利の及ぶ範圍からお話を進めるのが順序だと考へる。包括より分化へこれが文化の楷梯である。絶對より相對へ―これが社會生活進化の

經路である。仍で親權（父又は母が家に在る子に對して有する身上及財產上の監督保護の爲に有する權利義務の集合）と戶主權（戶主たる身分に附隨して家族の監督保護の爲に存する權利義務）とが漸次分化し今日では兩者の衝突する際は親權が寧ろ重んぜられ、次に親權も亦親の利益を目的とする制度から進化して子の利益保護を目的とする制度となり、又其內容も包括的權力から個々の權利義務に移つたのである。かくて我民法の規定を見るに、子ハ其家ニ在ル父ノ親權ニ服スとあるが、それは未成年の子と獨立の生計を立てざる成年の子とである。而も後者については殆ど有名無實なのである。若夫れ本權內容に至つては大略父は第一、未成年の子の財產に關する法律行爲につき其代表權を有すると同時に財產を管理收益する權利を有するが、其子の行爲を目的とする債務が生ずべき場合には親の專斷を許さない子の同意を求めねばならぬ。且つ管理上親權者は自分の爲にすると同一の注意を怠つてはならぬ。子が成年に達したときは遲滯なく其管理の計算をしなければならぬ。

第二、未成年の子の監護及敎育をなす權利義務を有し、身分相應の監護敎育の方法を實施しなければならぬ。併しながら如斯身分相應の敎育と云ふは、子の敎育の基礎を富の程度によつて區別するもので、其子の能力を本位として居ない。如斯不合理が何うて許されるものでない。何うして子の敎育は能力本位にしなければならぬ。かくして初めて天爵は全ふせられ文化生活は愈々理想化されるのである。玆に於て近來子の敎育義務は獨り其親のみならず國家亦其義務を免れないと論ずる人が次第に多くならんとしつゝある。私も其一人である。序ながら民法は監護敎育の權利義務と、其費用を負擔する義務とは別問題として未成年の子の財產を管理中、其子の養育及財產の管理の費用は其子の財產の收益と之を相殺したるものと看做すと規定してるのである。私の採らぬ所で立法上更に一考して欲しいと考へる。

（ロ）又未成年の子の職業を營むにつき許可を與へ又一旦與へた許可も取消し若くは制限し得るのである。

（ハ）更に未成年の子に居所の指定をする。家族も亦戸主から居所指定を受ける。親權者の居所指定權を、戸主のそれとか衝突するときは前者が優るが、夫の同居請求權は更に之を優るのである。而して右指定せられた居所に在るを欲しない家族なり未成年の子は單に扶養を拒ばまれることがあるのみで、指定場所に轉ずる旨催告されても應じない場合には離籍されることもある。但し未成年者は離籍し得ないのである。（民八八?及七四九）S子の第一の不安は之で一掃された。

（ニ）序ながら必要なる範圍に於ては親權を行ふ父又は母は自ら子を懲戒し又は裁判所の許可を得て之を懲戒場に入れることが能きる。此場合は未成年の子のみに限らない。

第三、父又は母は未成年の子に代りて戸主權及親權を行ふ。

以上の内容を有する親權については改正を要する點が少くないが父又は母が之を濫用し又は著しく不行跡なるときは裁判所は子の親族又は檢事の請求に因り其親權の喪失を宣告することを得、又管理の失當に因り其子の財産を危くした場合にも同様の方法によつて管理權喪失が宣告される。民法は單に著しく不行跡と云ひ、其程度を明示して居ない、だから其程度は社會道德の進化によつて異るのみならず、現在にては階級と社會慣習とが標準となつて、敎壇道德乃至講壇道德を以て直に律しないのである。併しながら私は此點にも反對したい。裁判所は慣習に引づられるよりも寧ろ進んで社會を引づるのが其天職ではあるまいか。若し然りとすれば、不行跡の認定は階級を超越した敎壇道德により律すべきであるそれは兎に角注意を要するのは右の宣告請求權は子の親族にあつて子自身にはないことである。

さて居所の自由については憲法第二十二條に於て

日本臣民は、法律の範圍內に於て居住及移轉の自由を有すと保證せられ此大原則に基き民法に於ても上述の如く未成年者の居所についても之を自由ならしめて居る。然らばS子を庇護するN夫人は安心して差支ない譯である。併し注意を要することは刑法二百二十四條未成年者を略取又は誘拐したる者は三月以上五年以下の懲役に處すとあつて、場合によつては誘拐罪に訪はれることがある。具體的の事實問題としては千差萬別で逐一說明致し兼ねるが、大體に於て故意に基かなければ犯罪は成立せぬ。略取と云ふのは暴行脅迫に因つて、誘拐と云ふのは欺罔誘惑の手段によつて不法に人を自己又は第三者の支配內に置くのである。尚暴行脅迫欺罔誘惑の手段は必しも本人に加へられることを要しない。かうして前掲S子とN夫人との關係を考へるときは、N夫人の心勞は杞憂にすぎないことが分るであらう。

S子の涙も結婚問題が解決すれば、そろ〳〵拭つてもよい。所で此問題は法律上は譯なく解決されるが、實際上頗る重大で事程左樣に簡單に片付けるわけに行かない。今S子は自分の欲しない結婚を親から强いられて居る。親同士は已に許婚の約束をした。茲に新舊思想の衝突がある。其衝突は獨りS子と親との間に起つたのみならず、S子自身の心の中に於ても大爭闘を起し氣狂ふしい程煩悶しなければならなかつたのである。家庭に順應せんか、凡ては平和である。自ら生んとせば家庭の波瀾は免れぬ。仍でS子は先づ法律上の自分の地位を考へたのであつた。

先づ以て親達の許婚約束は不都合極る話だ。第二に一律に親の同意を得なければならぬなんて無理な話だ。彼の女の此不平は尤もであるが、法律上當事者の父母間の約束は何等の効力もない。又民法七百七十八條には當事者間に婚姻を爲す意思なきときは無効として居る。だから假令形式上婚姻屆を出した後でも尙無効を主張することが能きる。併し二十五年未滿の娘が婚姻をなすには父母の同意を得なければ法律上婚姻は成立しない。此點につき民法は甚だ遺憾の點少くないが此所で私は一般に婚姻の成立要件並に事實上結婚したが法律上結婚の出來なかつた場合、殊にそれが夫又は家族の故障の間に法律上結婚を見るに至らずして破鏡の悲みを見た場合の救濟方法等に就て申上る筈だが都合上次回に讓ります。

島の乙女（七）

村岡花子

やがてマーチとモレイは元來た道の方へ引き返した。松林が暗く生茂つて居て足元が危かつたのでマーチはモレイの腕を取つて扶けた。

「僕は明日北部へ歸ります。」モイレは一寸の間、其の話の意味が取れないやうな顔附だつた。

「明日ですつて？」

「エヽ、明日です。」

「又御出でになりますか？」

「さあ……來年にでもなつたら、來るかも知れません。」

「來年！　來年なんて、隨分長い話ですわね。」

モレイの聲には明かに失望が讀まれた。

「來年迄の一年を長く感じなさるんですか？」

モレイは美しい眼を大きく見張つて、「エヽ、長う御座いますとも。ですけど、そんな事思ふのは私の間違ですわ。あなたがこんな所に何時迄もゐらつしやられない事は最初つから知れて居りますもの。ニューヨルクに御歸りになるのは分ゝ切つてましたがでも……私、こんなに急だとは思つて居りませんでしたもので……つひ、吃驚して仕舞ひましたの。餘り色々と面白いお話を伺ひましたので、後が却て淋しくなりますわ……。」

「僕が行つたら、少しは淋しいと思つて下さるんですか？」モレイは無邪氣な熱心さで、

「淋しう御座いますとも、どんなに淋しいでせう！ほんとに、私、困つて仕舞ひますわ。」

松林はいつか終つて、二人は明るい濱に出て居た。マーチはモレイの腕を放した。偶然にも二人は同時に歩を止めた。マーチはモレイと正面に向ひ合つたのだつた。一點の曇りもたゝへない其の眼……餘りに眞面目なマーチの樣子に、少し驚いたやうな表情が其の眼に見えて來た。

マーチは、夢の中で語つて居るやうな心持ちで話し出した。

「僕はあなたを愛して居るんです。現在の境遇の儘のあなた、其のあなたを、世の中の誰よりも愛して居るんです。僕は、今、唯あなたと生涯を共にしたいと云ふ丈けの望に燃えて居ります。ねえ、僕等は未だ若い、僕等の前には、未だ〳〵長い前途があります。其の旅を二人で進む事は出來ない事なんでせうか？　二人で、一緒に、成長して行く事は出來ないんですか？」

マーチには最早、先程迄の怖氣は失くなつた。觀喜とも附かず、悲哀とも附かぬ、言ひ知れぬ微妙な感情で胸が異様に時めいて來る。彼はどうしても默つて居られぬ不思議な力に支配されて、熱心にモレイの前に自分の心を展いた。

「私には……私には……何と申上げていゝのか、分りません……。私は、一體、如何したらいゝのでせう？」

「愛して下さい。僕の事を少しでも思つて下すつたらいゝんです。」

「私だつて……ですけれど、私には、ちつとも分りません。私のやうな者を……。」

然しマーチはモレイの言葉を遮つた。そして、彼に取つては、現在のモレイの地位などゝいふ事は、全然問題ではない事、モレイの人格其の物が彼の爲めには全部を意味して居る事を話した。それは全く他の人達から見たなら信じられない話だつたかも知れぬ。唯一週間の間に、人間がそれ程までに愛し合ふ事が出來るか、どうかといふ事に就ては、理屈は色々と附かうが、然し兎に角、此の二人の間の心持ちは、一週間の中に驚く程、理解されたのだつた。

斯うして二人は、聖い歡喜と滿足の裡に、將來を約束した。

モレイは、眠つて居る父親の邪魔をすまいと、足音を偲んで、階段を上つて行つた。萬事は夜の明けるのを待つて、話さうと思ひながら、自分の寢室の

戸を開けようとした時、突然に父親が部屋から顔を出した。

「モレイかい？」

「ハイ、お父様。」

彼は未だ寝衣には着替へて居なかつた。モレイは何となく面はゆい心持になつて、一寸眼を外らした。

「何處へ行つて居たの？」

「ミスター、マーチとお話をして居ましたの。」

「何處で？」

「海岸へ行つて、歸つて來ました。」

「彼の人が、どんな事をお前に言つたか、父さんに話して呉れ。」

モレイはそれには答へずに、父親の側に寄つて、其の肩に顔を埋めて、見る〳〵中に、彼の顔は青ざめた。かすれた聲で、

「さあ、何と言つたか、聞かせてお呉れ。」

「私を……私を……、愛して居るつて。」

「な、な、なんだつて！」

「父様、ほんたうなの。ほんたうなんですの。」

ヘロルドはモレイを、自分から突き離すやうにして、其の顔を見据えた。

「お前を愛してるつて！　お前を愛してるつて？ぢや、お前と結婚したいと言ふのか？」

「エヽ、然うです。そして私も承知しました。」

「モレイ！　それぢやあ、お前の方でも彼奴を愛して居るのか？　な、なんといふ事だらう！」

ヘロルドは、今の先迄、しつかりと摑んで居たモレイの腕を放した。唯、的もなく眼を見張つて、血の氣の失せた唇を肉も裂けよとばかりに噛みしめて居た。

「お父様、お父様。如何なさいましたの？　ミスター、マーチは、愛する價値の無い人だと御思ひになるんですの？　ねえ、お父様、お父様は御存じないんですよ。一度御逢ひになつて御覧になつたら分ります。あの眼を見たら……あの聲を聞いたら……確かに分りますわ。私にも……ねえ、モレイにも、人

間は分ります。お父樣……どうぞ、モレイを信じて下さい。そして、どうぞ、あの方に御逢になつて頂戴。」

然し、ヘロルドは、既に此の時、階段を下りて、マーチの所へ行き掛けて居た。マーチは下の部屋で銃を調べて居た。

其處へ、ヘロルドが來た。斯うして、彼等二人は思ひ掛けぬ場所で、思ひ掛けぬ事件の下に、長い年月の後に、再び出逢うたのだつた。

「君がヘロルドなのか？」マーチの聲は低かつた。

「今の私の名前はそれです。」

「此の五年間、僕が使つて居たのは君だつたのか。」

「然うです。ギルキンス判事が此處へ世話をして呉れました。まさかに、此の島が、あなたの所有にならうとは、あの當時は考へませんでしたからね。」

マーチの顏には冷い色が浮んだ。」

「ぢや何故、僕の所有になつた時に、辭職しなかつたんだ？　知らん顏して、おめ〱と此處に居るとは君もよく〱の恥知らずぢやないか。」

「此處を出たら、何處に私の行く所があつたでせう？」

「世界中、何處へだつて行けようぢやないか。男一匹、何處へ渡らうが、働いて食へない事があるもんぢやない。」

痩せ衰へたヘロルドの顏にサッと血の氣が上つた

「あなたの爲めに働くのが、自分の義務だと思つたから、退かなかつたのです。五年間、私はあなたの爲めに、正直に働いて來ました。」

「其の前十年間の不正直を如何するんだ。バイス君と僕とが、君を訴へずに、默つて解雇した丈けで、充分ぢやないのか。あの立派な君の妻君の心掛に免じて、僕達は全部の損害を埋めて、君を出してやつたんだ。それも思はないで、未だこんな所に、うろついて居て――。」と言ひ掛けて、マーチは口を閉んだ。彼は眼を轉じて、壁の寫眞を見た。ジムの文典の敎科書の中の手跡が、何故見覺えの有るやうな氣がしたのか、今マーチには、何も彼も分つた（つゞく）

季節もの料理

坂本花代

夏向の料理はさつぱりとしたものがよろしいのでサラダとデザートとしてコーンスターチプデイングを御紹介申上げます。これにパンとバタ、クキース様なものと加はへれば普通家庭的の夕食か昼食になります。

ボイルドドレフシング Boiled Dressing

	大量(六人乃至八人分)	少量(一人分)
鹽	茶匙半分	茶匙四分ノ一
カラシ	茶匙一杯	茶匙四分ノ一
砂糖	大匙一杯	茶匙四分ノ三
メリケン粉	大匙一杯	茶匙四分ノ三
卵(黄味のみならば二個)	一個	一個の四分ノ一(黄味ならば半分)
バタ	大匙一杯	茶匙四分ノ三
お湯	コップ半分	大匙二杯
酢	コップ四分ノ一	大匙一杯

鹽、からし、砂糖、メリケン粉を混ぜ、バタ、お湯を加へ是れに酢を徐々に加へ、二重鍋にてトロ〳〵になるまで煮、一寸うちたる卵を加へ、うらごしにかけ冷して用ふ。コップ一杯は大匙十六杯に相當し、大匙一杯は茶匙三杯に相當す。裏漉しにかけることは略してもよろし、野菜又は魚肉のサラドに此のドレッシングをかけて出すサンドウイッチにも用ふ。

サラド Salad

野菜はサラド、菜、うどなど生の物にてもまた、馬鈴薯のゆでたるもの、豌豆人蔘、竹の子など一度煮たものを用ひてもよろし。肉類、魚類も一度煮たものにかけて出す。サラドは残物料理として最も手軽に一寸の工夫でおいしく體裁よきものを作ることを得。

コーンスターチプデイング

コーンスターチ	コップ三分ノ一
砂糖	コップ四分ノ一
牛乳	コップ半分
水	コップ二杯又は一杯半
ヴアニラ	茶匙四分ノ三
鹽	茶匙八分ノ一

コーンスターチと砂糖とを混ぜコップ四分ノ一の水をよく混ぜながら加へ残りの水、牛乳、鹽を一しよに混ぜて加へ澱粉の生々しい味がなくなりねば〳〵なるまで二重鍋にて煮火より下しヴアニラを加へ型に入れて冷して食卓に出す。

訂正

夏期修養會は七月十二日より七月十九日まで御殿場東山荘に於て開催に變更す

これにはレーズンソース又は他のスウヰトソースをかけて頂く。

レーズンソース

レーズン(ほしぶどう)　コップ半分
砂糖　大匙一杯
コーンスターチ　大匙一杯
　又はメリケン粉大匙二杯)
ヴアニラ　茶匙四分ノ一
お湯　コップ四分ノ三

砂糖とコンスターチとを混ぜ水を徐々に加へよくかき廻しほしぶどうの種をぬき水にひたしたのを加へほしぶどうが柔くなるまで煮ヴアニラを加へプデイングにかけて出す、

第十七回夏季修養會

標語「汝等皆キリストイエスに在て一つなる也」
ガラテヤ三章二十八節

夏季修養會もいよ〳〵來月に近いてきました。今年は修養會までに是非會場を新築致し度いとの希望をもつて居ましたが種々の仕事が出來た爲にどうしても今一ケ年丈何處かを借りねばならぬ事になりました。多分本年は京都同志社女學校で開かれませう。詩的情趣に富んだ山紫水明の地私どもの心をそゝるものが待つて居ます時は大概七月廿四日から卅一日迄、講師の候補者は、渡邊善太、西野貞子、小平國雄、金井爲一郎、田川大吉、中路チカ子、山室軍平、古田とみ子其他の諸先生で是等の先生方が御承諾下さらんことを願つて居ます。皆樣も何卒今年の修養會が眞に祝福されたものであるやうに祈りつゝ御準備下さいませプログラムは來月の誌上で發表します御申込はなるべく早く遊して下さいませ。

本部會計報告　御寄附金

金五圓也	(維持費五口四月分)	松岡鎮枝氏
金貳拾五圓也	(同上廿五口四月分)	河井道子氏
金參圓也	(同上一口一、二三月分)	松本とよ子氏
金貳圓也	(同上三、四月分)	佐藤榮子氏
金貳圓也	(同上三、四月分)	加藤高子氏
金貳圓也	(同上四、五月分)	三輪田眞子氏
金拾圓貳拾錢也	(河井幹事講演御禮として)	天津婦人會

金壹百圓也	（負擔金として）	東京女子青年會
金拾圓也	（同上）	横濱女子青年會
金拾圓也	（同上）	札幌女子青年會
金拾圓也	（同上）	同志社女學校青年會

特別會計報告　指定御寄附

金拾圓也	（支那學生大會の爲）	共立女學校青年會
金拾五圓也	（同上）	上田女子青年會
金五圓也	（同上）	ミス、ホルド
金拾圓也	（同上）	ミス、トレストラム
金貳百圓也	（同上）	無名氏
金貳拾圓也	（中歐學生の爲）	ミス、トレストラム
金五圓也	（幹事養成所の爲）	吉田勝雄氏

博覽會休憩所會計報告（五月廿日迄の分）

御寄附金（四月廿日以後）	五五六、五〇
總計	一六、〇〇五、五〇
支出（自四月廿日至五月廿日）	一、二五七、五一
累計	一五、七一三、一九

內譯

俸給	八五〇、〇〇
保險金	七〇、〇〇
設備費	六九、七六
クラブ費用	四一、二二
裝飾費	七三、〇〇
印刷代	八四、五〇
電話料	一六、五〇
郵税	一七、二五
文房具代	六、二五
雜費	二九、〇三
合計	一、二五七、五一
差引殘高	二九二、三一

東京基督敎女子青年會報告

（一）五月六日は東京基督敎女子青年會の第十六回總會を擧行した日であります。何よりも氣がゝりだつた天候は日本晴の心地よい日でした。心落のない迄に準備はされ三時頃から會館の入口を廣く開けて皆様を御迎へ致しました。赤、白、紫、藤色の花とブルーの三角を胸にした二百五六十名の方々は體操室へと集まられました。程なく柔かに流れて來るオルガンの音に次で聖書祈禱、協議とプログラムは進ん

で行きます。

内池氏の銓衡委員報告を加藤高子氏代わられ。寺田初代氏の青年會憲法修正案原案の朗讀など終つて四百五十四の讃美歌の後河井道子先生の有益な御話がありました。其の大略、

私共は時勢の求めるまゝに外部の發展へといや增しに進んで行きます。そして外部の發展にのみ頭を痛め心を苦しめて居る然して默して內部の行進を觀るに外部と反比して社前の大木が容易に枯倒せるが如き不幸を悲しみます。「根深」と云ふ二字を翫味し度いと思ふ。根深かくキリストの御精神を內部に植込み、修養して健全なる內部の發展を試み度いと存じます。キリストを求める處に人の差別なく永遠の平和と、外部の眞の成功とが橫わつて居る。益々キリストを智識し信じて後の惠の感謝を經驗し度いと存じます。」

しんみりと考へさせられた私共一同は四六二の讃美終つて第二部へと移りました、色取々形樣々の可愛らしい洋服や和服等が處狹きほどに陳別された二階へと足を運ばれた。三十分位經て食堂と早變した元の室に戻られ、各グラブのクラブ歌の皮きりに青年會獨特製の御料理に舌鼓を打たれました。華かなピアノ獨奏から流調な英對話があり、タイプライター競技は近頃珍らしく人の心を苛々らせ模擬議事、今や奇妙な程身輕るく動く體操で笑ひくづれ乍ら時が進みプログラムは終りました一同光の歌を最後に惜しき集は閉られました。

(二)四月二七日大地震の爲壁外部四十八坪、內部五十坪の破損、修繕費として七八百圓餘を要する見込。

橫濱基督敎女子靑年會報告

日曜日禮拜に於て、過去一ヶ月間の講演者は、搜直女學校敎頭高垣氏、本牧敎會山口牧師夫人、家庭學園々長黑川氏、英和女學校々長ハヂス氏なり。同禮拜は、春期休暇以來人數に於ても、增加を見、又集りの性質及び精神に於て、進步し本會の靈的生命

に、大いに力あるものと成りつゝあるを喜ぶ。

宗　敎　部

一、夫人クラブ、五月十六日例會を開き衣服の流行につき面白き講話ありたり。

クラブ

二、支那女學生クラブ、千葉縣下に長く傳道を專らにせられつゝありし、コールボン姉は、支那語をよくせられ支那女學生クラブの聖書の組を、熱心に敎授せられしが、此度休暇のため、英國に歸らる、クラブ員一同は、同姉の歸朝を今より樂しみ。待ちつゝあり。

會員訪問

日本人寄宿舍々監安田そよ姉は、去月來會員の訪問を始められ、之により會員及び本會の間に、新しき關係生み出されつゝあり。

一　般

本會委員山口たづ子夫人の令孃和子姉は、昨年來病氣にて靜養中なりしが、五月七日遂に逝去さる。幹事一同、ルイズクラブ員數名、鎌倉同姉宅にかける告別式に參加せり。

レオナ、スカット姉は、米國の一友人より同姉に對してのプレゼントの一部を、本會に寄附さる、本會は、之を以つて、廣間に籐椅子の一組を、買ひ求めぬ。同姉及び未知の篤志家に、多大の感謝を捧ぐ。

神戸基督教女子青年會報告

留守居を預る私等總てに於て手不足を感じつゝも祈りの内に努力致して居ります。

教　育　部

英語の組出席數（朝夕）	百四餘名
料理の組	三十五名
編物の組	三十名

此學期より殊に有識夫人の爲に夜（月）料理の組を開いて居ります。（十二名）

クラブ　追々と新らしいクラブも出來充實して參るりました。新らしくフレジャクラブ白百合クラブが

組織されました。

復活祭　今年は神戸市の信者と共に午前六時より市背後の諏訪山公園にて守り一同大いに力を得て下山致しました。

音樂會　四月廿二日(土)ピアノ購入の爲東京音樂學校教授ショルツ氏及び京都の竹內貞子夫人を聘し神戸女學院講堂に於て音樂會を催し純益四百圓餘を得ました。

　この催しは二三の有志の方の御骨折と贈物と深く感謝致して居ります。

總會　五月一日第三回總會を當會館に於て開き最近歸朝されし中路ちか子女史の御來會を願ひいと力强き御奬勵あり又當女子靑年會の歷史をしぐさに表した餘興等ありました。(來會者百餘名)

旗の日　五月二日より英國皇太子殿下の御來神に當り日英交驩旗を賣りました。先日來よりの多忙の爲只幹事が少しの暇を得て音樂會場又は四辻に立つて賣りました。(純益百二拾圓餘)

兒童愛護デー　神戸市の計畫により私等女子靑年會でも此貴い計畫に讃成し一日花を賣りました。これによりて子供尊重の思想が深く神戸市民に普及されました。

イースター

イースター!!!　主の復活されし日、今年は意義ある日として迎へたいと願ふ心が計らずも一致し祈りとなり終に神戸市の各信者の希望と成りました。

　神戸男女子基督教靑年會の主催の下に市內男女ミッションスクール教會の諸兄姉も御賛同下され且つ男女靑年有志者(西洋人支那人の方をも含む)より成る四百餘名の大コーラスをも組織致す事が出來ました。

　當日黎明より讃美歌を手にした老若男女三々伍々希望に輝いた面持らで諏訪山公園へと足を運ばせ早くも七百餘名の人々は金星臺を中心として集りました。

　市は未だ眠より覺めず朝靄に包まれ只公園と附近の樹々は夢のやうに横はり其中を飛び交ふ鳩は此集りを祝福するかのやうに見受けられ次第に朝靄の中より昇る太陽が私等の心を二千年の昔主キリストが死より復活なし給ひし當時に歸らせ只喜びと感謝に震へました丁度其時司會者の開會の辭と共に心より主の復活を歌ふ讃美の聲が

一つとなり清い美しいメロデイーとなつて神の御座に流れて行きました。ダクターマヤスの熱心なる祈禱に次いで此度歐米漫遊御歸朝されし神戸組合敎會牧師米澤先生の「現代の社會を救ふイエスを見出せ。今の日本の社會を眞に救ふ者は吾々の内より出なくてはならない。されば姑息なる自己一人の歡びに滿足せず大いなる努力を持つて神の國の建設に從事せよ」との充實したる御奬勵あり再び望みに滿ちた讃美の聲は漸く眠りより覺めた市民の心に流れ行きましたかくて各自堅い決心と自覺を持つて七時に下山致しました。

この山上で與へられた決心が事實となつて表はれる日の來らん事を切に祈つて居ります。(Y. W. C. A K. W.)

京都基督敎女子青年會報告

四月下旬米國よりの來客ミステイラー一行十五人を當地にむかへ本會主催にて茶話會を催しました。其頃、丁度日本基督敎會浪花中會が當地で開かれて居ります際なので牧師方にも同時に御出を願ひましたら七十餘人も御越し下され會館は眞に立錐の餘地もなきほどになり誠ににぎやかな會でございました海老名會長の令孃海老名みち子氏のピアノ獨彈外國婦人二人のアメリカのクロンボの讃美歌合唱等は一同から拍手喝采を以てむかへられた餘興でございました。活動寫眞會は二十九日の晩開催、入場者三十七人フイルムさほどはつきりした立派なものではなかつたのですが、敎育的のものであると同時に滑稽な寫眞が多く女學生方からは喜ばれました。

會員のある一部の人々とはいつも接觸して居りますが會員の多くは只會費を納めるのみで會の何たるを御存じない方々でございますから一週に一度三十人位づゝ招いて親睦會を開く考です。女學生のみの會員の會合なればフォークダンスとか英語對話をして見せ奥さん方計りなれば洋裁とか編物等の出來上つた品を見せ會の實際の活動に興味を起すやうに致したいと考へて居ります。クラブでは今フォークダンスと英語對話の稽古中でございます。以上

同志社女子青年會報告

空も地も美はしく互に輝いて居ります。

愛する女子青年會も愈々神の御心にかなつて發展

して參ります事を誠に嬉しく存じます。私ども、本年も元氣に滿ち〳〵て惠まれた樂しい日々を送つて居りますから何卒御喜び下さいませ。殆んど千人近くの姉妹の中に立つてどんなにしてお互に導き或は導かれて行つたらいゝかと色々計畫して居ります。

　幸ひに市の方のページ先生を始め、ベスト先生林先生など、何彼と御盡力下さいますので誠にありが度存じて居ります。一人の人に小さな愛の行を施す事にも限りない喜びを抱きますものを、まして私ども世界の爲に祈りを捧げ、働く事が出來ます。幸、それを日毎に感謝いたして居ります。

　只今の所、社交部、宗教部、文藝部、仕事部の四つに部分けいたして居ります。唯趣味の爲にこんなに分けては居りますけれど、何事かの時は會員全部で働く事に定めて居ります。

　各部に一名の部長を置きまして、部會を一週一度づゝいたしまして又適宜の時各部長の集ひを開きます。會員全部の集ひは例會といたしまして一月に一度の割に開かれる事になつて居ります。

　昨日今日、社交部は來る二十日過に催します。苺會の爲に、（市の皆樣方との親睦の意味で一諸に加茂川に沿ひました植物園でいたす事になつて居ります。）

　仕事部は地久節前日開かれます學校の文藝會當日を期しましてバザー、模擬店等の爲に、それ〴〵忙しく活動いたして居ります。

　講演會、聖書研究會、下級の方の指導の爲にクラブの設け等組織しまして、宗敎部、文藝部も十分に働き度いと存じて居ります。

　姉妹の便利をと存じましてずつと以前より文房具を毎日賣つて居ります。新學年の前後中止いたして居りました麪包賣りも近日に又始める事になつて居ります。先生方も生徒の必要品を會の方に御注文下さいますので、可成、廉價に、そして便利にと務めて居ります。

　先學年末エプロン、襯衣等を作りまして、神戸貧

民衆の人達にお送りしました事と、さゝやかながら書、繪、手藝品などの展覧會を催しました事は、嬉しかった事、樂しかった日として殘って居ります。

去月は新入會員の歡迎會を開きました。百二十名餘りを迎へまして茶菓を頂いて半日を殊に樂しく過しました。

先日は支那女高師の方を二十名ばかりお迎へしまして記念の爲リボンの栞を差し上げました。色々と計畫も致して居りますが追つて御報告いたします。凡てを實現する爲に努力いたします考でございますが何卒皆様方この爲に共に御祈り下さいませ。

諸先生をはじめ皆様御健かに在します様切にお祈りいたします。

大正十一年度新役員

専門學部

會長　清水　貞子
副會長　佐々木愛子
書記　光安　和惠
同　槇尾　祝
會計　押本　止子

普通學部

會長　大賀　多嘉
副會長　露無　傳
書記　大庭　愛子
同　佐伯　千地
會計　大谷　信子
同　小野　彰子

女子學院青年會報告

私共の青年會は御卒業の方々を御送り致しまして淋しくなりましたけれども、此の新學期に於て小さい可愛らしい方を大勢お迎へして又もとのやうに賑やかになり私共は一倍責任の重くなつた事を感じました。

私共は常に神様の御守りと御助けによりて委員を初め會員一同は何か神様の御用の爲めに心から忠實に働く事を誓ひました。只今は新しい方々の爲に體操の「たすき」を作ったり靴下を賣ったり致して居ります。初めから大變よく賣れますので本當に神様に感謝致して居ります。小さい事でも神様の御用ならば喜んで致して居ります。

先學期の末に役員の改選を致しましたから御報告

申上げます。

會長　内田惠美子
副會長　里見千代子
書記　大島貞子
會計　黒川靜江
　　　鈴木千代

福岡女學校女子青年會報告

社交部

五月十八日は我校のメーデイ（創立記念日に當る）が御座いますから此の好機會を失はないで社交部の主催として露店を造り各部に分ちラムネ、御すし、菓子類、果實類を販賣を致す考へで今から準備中で御座います。

宗教部

三月三日は毎度同じ事ばかりしてはと思ひ先生と御相談の上各學級より一名づゝ出して五分間演説を致しました。

四月二十一日は今度新らしく入學せられた方々が讃美歌を御存じになる様に讃美會を催しました。

仕事部

此度から青年會の仕事として當會で封筒を作り度いと考へて居ります。

販賣部

此度新たに白と黒の靴下を賣る様になりまして大いなる利を得て居ります。

本部の皆々様私共の會は小さうございますけれども神の御力によつて力ある會と致し度いと思つて居りますからどうぞ此の小さい會の爲めに御祈を御願ひ致します。

弘前女學校女子青年會報告

私共は眞に小さきもので御座いますけれども神の御守りのもとに慈善部の働として色々の品を作つて居ります今年こそは私共のベストを盡して神の御導きのまゝに幾分なりとも青年會の御働をお助け致したいつもりで御座います。

何處のクラスも専心に……神に祈りつゝ……私共

の小さき働きの成長の爲に皆様の熱き御祈りを御願ひ致します。

先學期の終りに役員の改選を致しましたから序に御報告申上げます。

新　役　員

顧　問　ミスカーチス　　慈善部長　齋藤　いし
　　　　佐藤　先生　　　集會委員　高橋　いく
會　長　佐々木つせ　　　社交委員　對島　てる
副會長　福士　あき　　　販賣部長　相澤　花子
書　記　工藤　みき　　　副　　　　工藤　とみ
會　計　石郷岡はつね

平和博休憩所報告

K・O生

人に何かあげやうと思つて
もつてる自分の一番よい物を探す
そしてどれが此人にあふか知らんと
これかあれかと品定めをする
かつきり其人にあつたものを捧げ得た時の喜

不思議の賜が新に加へられる
友の輝の底から……
得やうと思ふのでない
井戸の泉の姿が
小供を養ふ乳の姿が
人の心の中に現れて來る。

櫻の四月に比して青葉の五月の平博見物者はずつと入場者が少かつた地方の人々が農繁の爲もありませう。其他何處に理由がありますのか、當局の方々はいろ／＼と苦心をされて各種の新しい御計畫があるやうです。私どもの休憩所も土曜日曜をのぞくの外は入場者はずつと始めよりも少なう御座います。しかし午後はかなり忙しい方で兎に角よい働をさせて頂いて居ます。館内に働いて居らるゝ看守の方々

の爲にミスアームストロングと私は特別に力をつくして居ます。毎日午前十一時半から一時半迄の間クラブ室にお辨當を持つて來らるゝ方々と共に食事をし皆さんとお近づきになる喜を味ふて居ます一時から二時迄は特に機械動力電氣館より五人づゝ毎日交代に來られる人々にお話をし共に歌ひ遊びまして、此方々の内に隠れて居るねむつてる力を呼び醒し御慰勞の一はしになり此方々が伸々してゐらつしやるのが眼に見えるやうに思はれます。夜は月水に英語の組を木曜には茶話會を催して居ます。こんな嬉しい集は生れて初めてだと喜ぶ姉妹だの、私には姉樣がある事を初めて知つたと世界のシスターフッドの自覺を得る人だの此會が濟んだらば女子青年會に是非行きますと申す人などの心の底からの喜の聲に感激の涙がにじんでくる時が何度もあります。朝鮮の七人の姉妹方とも友達にさせて頂きました。八百人からの看守の中で私どもの所にお出で下さる方は十分一にも足りない數ですけれど質に於て決して貴重の時間が浪費さるるものでない事を信じて居ます。

左に休憩所の日記の拔萃をしるして御目にかけませう。

五月一日　晴。

青木夫人お花の先生久野氏御同伴花を生けて下さる、青木夫人よりチューリップ、スウイートピイーを頂く。入場者は休憩室五百十三人、喫茶室百十七人、看守廿三人。

五月二日　少雨。

ミセスメンデルソン、長谷川姉、ミセスハナフォード御來援、松宮夫人午前御發病夜に入りて歸宅さる休憩室百七十八人（つけ落しあり）喫茶室百十九人看守廿四人。

五月三日　晴後雨。

西邑夫人、井深夫人御來援。午後四時前大雨にて屋根に雨の打つける音恐ろしく一同泣面……大瀧の樣な雨も數分にて止み再びよいお天氣、喫茶室の方は蓄音機をかけて景氣をつく。

休憩室三百六十七人、喫茶室百七十二人、看守二十七人。

五月四日　晴。

田中夫人、安田姉御來援。ミスアームストロング岡崎姉看守の爲御來場、大呑姉午前中松宮夫人御見舞に行かる。博文館より淑女畫報二部寄贈さる。

休憩室四百五十八人、喫茶室百五十四人、看守廿七人夜看守方の茶話會を催す來會者四十名。

五月五日　雨。

東京女子靑年會より君塚姉、今西夫人、毛利姉御來援、午頃横濱英和生徒二百七十八人一度に來場御辨當を用はる。化粧室もクラブ室も開放して大騷ぎす後に殘りは折やごみは山程ありき。

休憩室六百十五人、喫茶室百十七人、看守廿六人

五月六日　晴。

深井先生、毛利姉御來援。

休憩室七百三十四人、看守廿八人。

聖句を寫して歸る方、トラクトを持歸る方澤山あり嬉し。

五月七日。（日）

中々の人出にて喫茶室は十一時頃より竹の子飯賣れはじめ一時過に二鍋の全部賣切れ、サンドイッチもドーナッも菓子もコーヒーも賣切れ午後三時に店を閉づ。勝部姉大呑の二人にて少々困る位の人出なりき、幸に一人の苦情を言はるゝ方もなくキャフテリア式を皆樣よく了解して下され世話少しも燒けず東京女子大生四名ミスチャペルに伴れられ御來場讃美歌を唱つて下さる。讃美歌の問無數の來場者あり小册子はまたたく間に飛ぶ樣になくなる。來場者は餘り多くして數ふる事能はず。お茶を上げし一千百六十八人喫茶室二百八十人。

五月九日　小雨後晴。

ミセスメンデルソン、室原マリ子姉、ミセスハナホード御來援。大江先生夕方御來訪下さる。今日より機械動力電氣館の看守の方々を事務所より毎日五人づゝ午後一時より一時間精神講話の爲め休憩室に

送らる丶こと丶なる。入場者休憩室五百五十三人、喫茶室百九十人、看守人二十四人、

五月十日

來援者なし。禮拜大呑司會祈禱中來場の千葉縣佐原の橋本と言ふ七十二歳の老人祈の集いに入らる同氏はメソヂストの信者なる由にて此働に大いに感じられ、大いに力つけて下され終りに此働の爲に祈つて下さる歸らる丶時若き人が此樣な働をされる樣になつたれば自分の如き老人は喜んで天國に行かれると言はれ再び天國にて相見んと約して涙を眼にためてをらる。

大呑平和館に松原氏を訪ひ迷子の待合の事につき御相談す。既に住友館に決定したる樣の御話なりしが再び事務局　て御逢し事務局にて此爲に小さき建物を正門の近くに建てらる丶事となりし由なり。

河井先生ミスバードサル渡邊姉御來訪。入場者休憩室六百七十人、喫茶室百八十九人、看守二十一人

五月十一日

青木夫人、田中夫人御來援、青木夫人レコードを御持參借して下さる。午前中小學校の團體來場、赤さんのお守多數二人は御預りしねせて上る。大阪女子青年會及本部よりのポスターを張つく。入場者休憩室六百三十二人、喫茶室百九十二人、看守三十二人

五月十三日　土曜。

今西夫人、横濱の田中樣、お茶水の土井、安井樣御來援。午前九時半　皇后陛下第一會場に御成煙火の音賑々しく人出も可成多く賑かなる臺灣館には臺灣デーあり景物等出す。勝部樣お休み喫茶室は今西夫人上野姉大呑にて擔當の松宮夫人より御氣遣來る次第に御よろしき由嬉し。

過日休憩室にて休まれし長野縣飯山高女生總代福田文樣より感謝の文はがき來る。今夜より夜間開場なれば午後になりて割合に賑ふ。入場者休憩室六百四十人、喫茶室百八十三人、看守三十一人。

五月十四日　日曜。

江崎夫人、毛利姉、お茶水專政科生安江、土井、高

木姉御來援。晴天の日曜とて中々忙し。
午後二時半ミスチャペル及東京女子大學生四名御來塲讃美歌を唱つて下されサンデー氣分になる。歌の間いつもの如く多數の人戸口に群集し人の通行をふさぐ程なりき。入場者休憩室千四百七十五人、喫茶室三百八、看守さん三十人。

五月十五日

禮拜上野姉司會。松宮夫人御全快にて御出あり嬉し勝部樣御不快にてお休み毛利姉御手傳ひ下さる。鶴見氏後藤夫人御家族御同伴淸岡樣御夫婦御來塲。露國人家族來塲奥樣は大根を希望されたくわんを差上ぐ喜んで食され色々塲内の樣子等お話し喜んで歸らる入塲者休憩室三百七十八人、喫茶室百十八人、看守三十八人。

五月十八日 (木)

喫茶室のガラス拭あり淸々しくなる今日より勝部樣御用の爲御歸仙にて淋しくなり本部より勝部樣に代つて毛利樣御來援。養成科の方二人御手傳ひ下されれ午後一宮夫人御來訪日を定めて御來援下さる由嬉し、午後の看守の方の講話の時間岡崎樣御差支あり大呑代つてお話をし遊ぶ夜パーティーありパージニヤダンスをす。此日入場者休憩室二百七十八、喫茶室百九十七人、看守二十七人。
午後二時頃東京日々新聞販賣者招待にて埼玉縣下より見物に來られし百二名の團體休憩茶を喫せらる

本部便り

河井總幹事は五月中旬大阪女子靑年會の募金運動應援の爲に大阪に赴かれ數日御滯在十七日歸京され目下十八日より二十四日迄の全國基督敎大會に御出席なか〳〵お忙し。
ミスゼエーンスコットは支那大會より御歸京御足にソコ豆が出來ルカ病院に一週間御入院されしも直ちに御全快目下基督敎大會に御出席中。
ミスパードサルは小石川ニトベ邸にて五月十五日より渡米婦人の爲禮法講習會を開始され居るがお茶

の時廻るミルクにお砂糖を入れてのまんとするなど面白き事のあらるゝ由。

ミセスウッドは幹事養成科の主任として熱心に働き居らる。

渡邊百合子姉は支那大會から御歸京後毎日ミセスウッドと共に幹事養成科の方の御監督に力をつくさるゝと共に夏季修養會も近よりし爲其御計畫に忙しく熱心に働き居らる。

ミスアームストロングはクラブの方を熱心に御指導下され又三月以來上野平博看守方の爲に慰めとなり、光となつて働かれしが來る五月二十五日お待兼ねの御母君の所へ御歸國と定まり看守の方々は別れを惜しみ同氏の人格をほめたゝえつゝあり。

大呑久子姉は平博休憩室の主任として二ヶ月餘御應援下されしが五月の末神戸に歸らるゝ豫定、總幹事としてお忙しい同姉が心快く最も困難の時機にお助け下されしは本部一同の心より感謝する所。同姉の代りに先に東京青年會旅行者の友主任として働かれし林氏を六月より迎ふる事となる。

綾井、毛利の二氏を事務所に迎へやつと手が揃ふ

五月二十四日午後二時より第一回幹事養成科卒業式を東京女子青年會館にて執行卒業生は、左の六氏なり。

神戸女學院大學部	相澤けい
金城女學校専攻科	大石みゆき
東京女子大學	高畠音羽
同志社女學校専門部	山添通子
宮城女學校聖書専攻科	高久敏子
東京女子大學	吉岡美智子

猶同夜は支那女學生一行歡迎招待會を開催したり。

五月三十一日は本部年會を開く。

ミスフエーリスは五月初旬東京を去られしが六月十日神戸發にて歸米。

讀書紹介

「花咲く家」原著者はペリー氏で此の本誌に毎月お面白いお話を少女方の爲にお書き下さる村岡花子夫人の譯されたもので淸い美しい意志の强い女乙が戀と生活問題とを同時に考へねばならぬ運命の下に戰ひ悲しみを胸に秘めて奉仕の生活に人々の心に花咲かせ多くの人々を敎化し行き最後の勝利を得る迄に天眞爛漫な無邪氣な幼子があやつりの糸となり、小供の智慧もて閉ざせる人の心を解く美しい物語です。輕妙な筆につひつられて一息に讀ませられます笑つたり泣いたりして讀む中に尊いものを得られます御讀みになり度い方は本部へ御申込み下さいますれば直ちに御送り申上ます定價は一圓五十錢送料は十二錢で御座います。

左の方々の御住所を御存じの方は何卒本部へ御一報下さいませ。

大阪市西區幸町通四ノ六 堤 いわえ様

北海道札幌區北三條ペナマー方 須田 琴佐様

小石川區原町十六白山女子寄宿舍 川島 友江様

淡路國洲本町細工町 保江けい子様

麻布區東町二四 鍋島 愛子様

小石川區指谷町一四六 相馬 貞井様

芝區三田四國町一五 根本 りよ様

神戸市上澤通五丁目田中ふみ方 江口 郁子様

以上の方々は住所不明で雜誌が返つて來ました。住所御變更の折には御手數ながら御一報下さいませ。

本誌愛讀者の一人山口和子様先程御永眠の報を受く謹んで哀悼す

備考

一御注文は一切前金に願ひます
一御送金は振替でお拂込み下さる事が便利で安全です。但手數料一錢をお加へ下さい。郵便切手代用は一割増

振替東京二三七二三番

定價郵税共	内地	海外
一部	金貳拾錢	金貳拾四錢
一年前金	貳圓	金貳圓五拾錢

廣告料	
一行	金五拾錢
四分一頁	金五圓
半頁	九圓
全頁	金拾五圓
年極又は回數により割引有	

大正十一年五月廿八日印刷納本
大正十一年六月一日發行

發行兼編輯人　神田區錦町一丁目十六番地　河井道子
印刷人　東京市芝區櫻田和泉町七番地　前川吉治郎
印刷所　右同所　三成舍
發行所　神田區錦町一丁目十六番地　日本基督敎女子青年會
電話神田三六五二番
振替口座東京二三七二三番

Burnett under the auspices of the Student Association. This Club is limited to College girls and has now seventy-nine members. On Saturday, May 13th, the officers of the Student Association were invited to the City Y.W.C.A. Building with Miss Burnett, and in the delightful fellowship all saw a vision of increasing strength through closer cooperation in the future between City and Student Associations.

The Annual Meeting of the City Association was held on May 1st, and the speaker was Miss Chika Nakaji, who gave a talk of great power. Miss Amy Smith, late of the Northwest Field, also gave a message of the increasing spirituality of the American Associations, showing how the financial depression following the War has redirected emphasis toward the World's Motto, "Not by Might nor by Power, but by My Spirit." Some of the Association members then represented the brief history of the Kobe Association in dramatic form, and sang original Association songs. A pretty scene was that of the May Queen, for May Day, given as a club program, was part of a "Day in the Modern Association." The Meeting had commenced with a lap luncheon, and closed with the participation of a number of Kobe College girls in the "Night School", addressed at "Chapel Service" by Mrs. Haseba, the president. New board members are: Mrs. Izuno, Mrs. Narae Nakamura, Mrs. Adachi, and Miss Kamoda.

Large numbers of migrants are coming to the regular emigration institutes, and there is increasing freedom to dwell on the Christian message. After an introductory talk about it in the institute, Rev. Kanamori's tracts are eagerly taken for reading on the boat.

A concert was given on Saturaday, April 22nd, to finish raising the money for the Association piano, which Mrs. Isobe, one of our board members, has been building up through donating her fees for piano teaching. To Mrs. Isobe and Miss Kamoda, her associate on the Piano Fund Committee, are due the splendid success, for the concert raised about a hundred yen more than was needed to buy the piano - which surplus will go into the regular fund. Prof. Scholtz, who is about to retire from the Tokyo Music School, was the pianist, and Mrs. Takeuchi the soloist.

Other finance work done this month has included the selling of British and Japanese flags at the time of the visit of the Prince of Wales, and of flowers on "Aigo Day" for the City Children's Settlement.

flowing during the last few weeks. On two nights 21 guests were accomodated. This meant using every available room and corner of the veranda. The members of the Taylor party visited The Residence on the afternoon that the Yokohama Women's Club held one of its most interesting meetings. An exhibition of flower arrangement and tea ceremony was given by Mrs. Yamamato.

Several members of the Yokohama Board of Directors gathered at the dock to wave farewell to the members of the Taylor Party, when they sailed on April 29th Three members of the Yokohama Board have registered themselves for the first tour of this kind to be conducted for Japanese Association workers, and they hope the time of starting will not be long delayed.

Yasuda San, who is the Matron of the Dormitory for Japanese Girls is now giving part of her time to membership work. Her calls in the homes of Association members will be of great assistance in maintaining a vital interest in the work.

Mrs. Colburn who speaks Chinese with such fluency as to make her talks to the members of the Chinese Girls' Club of very real inspiration, had her last meeting with the girls on May 16th. She is sailing for England for a short furlough. Her generous and ready spirit of co-operation has caused her to be a most valued volunteer worker.

Theonly daughter of Mrs. Tasu Yamaguchi of Kamakura, died last week. Mrs. Yamaguchi is a member of the Yokohama Board of Directors and the sympathy of the Association members goes out to her in her loss.

The Sunday Services have been of great inspiration and help in the last weeks. The attendance and interest have been especially encouraging. Among those who have addressed the meetings recently are Miss Hodges who spoke on the subject-"Choice", Mr. Takagaki, the Dean of Soshin Jo-Gakko who spoke on the subject "Individual Work for Individuals," and Mrs Yamaguchi, wife of the pastor of the Honmoku church who spoke on the subject "Love to God and Service to Man."

KOBE

The Easter Sunrise Service was all that had been expected in attendance and spirit, about six hundred gathering in the quiet of the early morning for reverent worship.

The Spring term opened on the 12th of April and all usual classes are proceeding merrily, while Miss Chappell's club work shows constant development. Consultations are being held about the formation of a large club of the Academy Girls of Kobe College, which she will lead, corresponding to the Voluntary Bible Club taught by Miss

everywhere we go, the girls, as well as the guards and policemen, smile and bow to us in the most friendly way.

TOKYO

The Annual Meeting of the Tokyo Y.W.C.A. was held at 14 Kita Jimbocho, Saturday, May 6th, at 4 o'clock. Mrs. Koyano, one of the members of the Board presided. After the opening devotions led by Rev. Hikaru, the election of new members to the Board took place, and ten women were elected, four to take the place of those whose terms had expired, and six more in order to increase the number of the directors from fifteen to twenty, as provided by the revised constitution, which was read and approved by voting members of the Association. Miss Michi Kawai, the National Secretary, gave the address of the afternoon, after which a cafeteria supper was served to about three hwndred people. The latter part of the programme consisted of a short play by the English Department, a typewriting speed contest by the Commercial Department, Club Initiation Service and Business Meeting by the club girls, and some parellel bar work by members of the Gymnasium Department, under the direction of Miss Ferris.

Miss Sara D. Ferris, the physical director, sailed unexpectedly for America on Monday, May 8th, to accompany her mother, who had been visiting in Japan for several months, and who was not well. Miss Ferris's work is being taken by Mrs. Downs and Mrs. Ryan for the remainder of the term.

There are now 117 girls in the commercial school, and at a banqnet held on May 5th they decided to organize into clubs, one to meet in the afternoon for the girls who come during the day and one to meet in the evening for the night girls, many of whom are already holding positions. The girls agreed that they would rather consider themselves as one club, with two sections. Both groups have held their organization meetings, and they are most enthusiastic. They chose for a name "T. S. Club" (Typewriting-Shorthand), and in addition to regular clnb meetings once a month, many of them come once a week for English song practice and twice a week for basketball, to say nothing of coming every day for typewriting. Throngh the courtesy of Mrs. Sugita (formerly Miss Eguchi), the girls have been invited to her father's lovely home at Kokubunji for a picnic on May 20th.

YOKOHAMA

The Yokohama Association is rejoicing over new furniture for the Assembly Room. It has been so long needed that it still seems almost too good to be true. It was made possible through the kindness of Miss Leona Scott who passed on to us part of a gift of money received from the Denver, Colorado, Y. W. C. A.

The Residence for foreign girls and women has been filled to over

THE YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)

Volume 6 June 1922 Number 3.

NATIONAL

Some one asked if the work we are doing with the girls employed on the grounds at the Peace Exposition was worth while. The answer was unhesitatingly, "Yes". It is true that out of almost 750 girls employed on the two grounds, we are in touch with only about 100. We have done nothing at all for the girls on the first ground except talk to the head manager. But on the second grounds, the girls know we are there to be of service to them. Every day about 25 girls bring their obento to the quiet little Club room at the end of the Association rest room. Here a girl can take a nap, read, knit, mend her kimono, listen to Victrola, or talk with others, after she has finished eating. Each girl seems to have her own schedule,-some leave immediately after lunch, others stay as long as a half hour. Now that the gounds are open at night, the girls bring their obentoes at night also and have a little rest before going back for the evening hours.

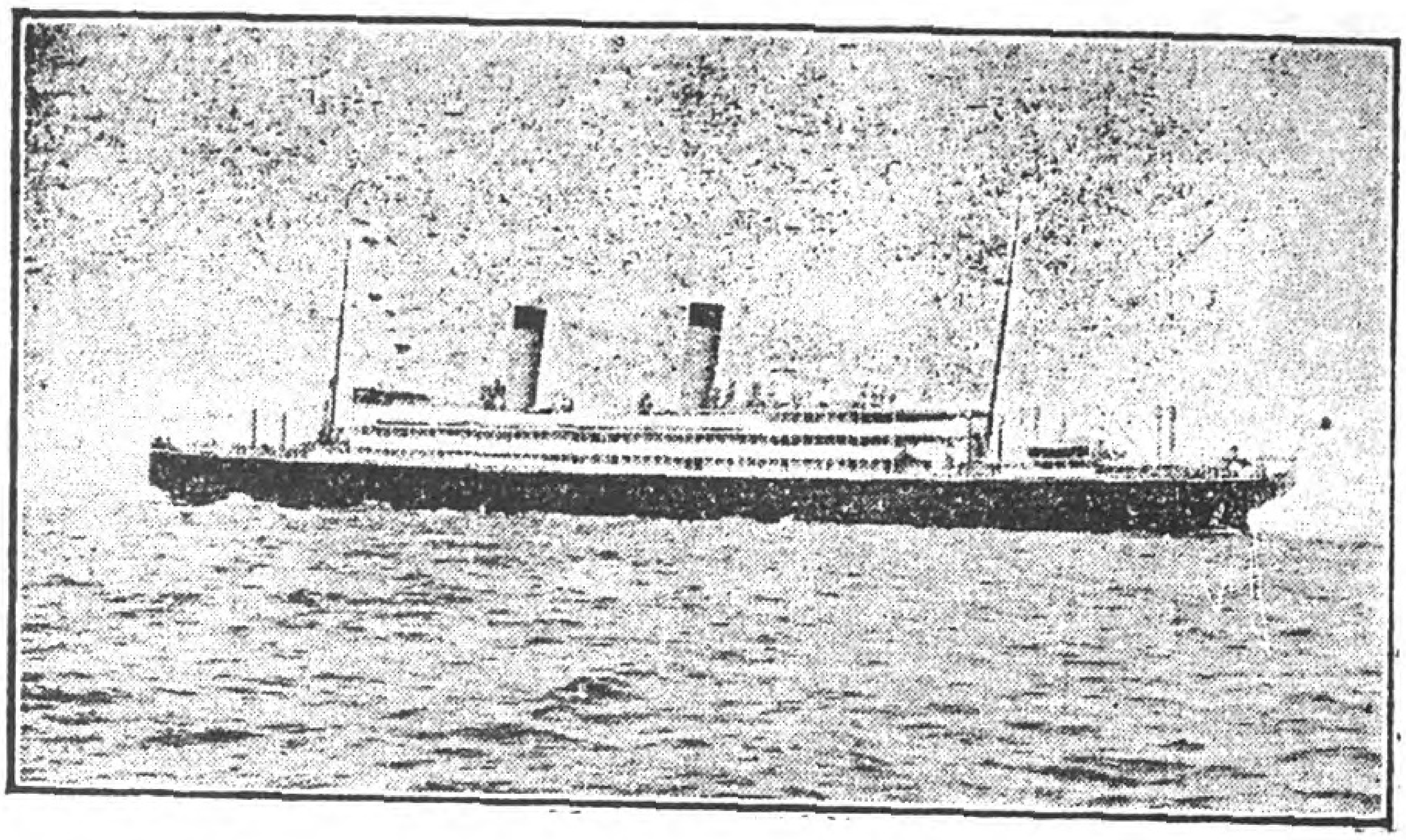
We have had six parties for all the girls and one for the seven Chosen girls. The largest attendance at any of these parties was 41. The girls enter into every game with the keenest enjoyment and they learn new games and tricks very quickly. One part of the evening's program which they enjoy, perhaps more than any other is the time spent in singing hymns,- each one being given an opportunity to select her favorite one.

We found that a number of the girls were most eager to learn English, so for the past month we have had two English lessons a week, from six to seven.

At the request of one manager, we are having an hour's meeting every day for the girls from his building. Five girls come at a time and listen to a short inspirational talk, sing hymns, play games and have tea. Sometimes the girls ask question for the whole hour. One girl had seen the life of Christ in the moving pictures and she wanted to know why they crucified Christ and put the crown of thorns on His brow. Another girl whispered with tears in her eyes that she was hearing for the first time of the universal brotherhood of man and of the Fatherhood of God. One girl who heard of the Young Women's Christian Association for the first time, did not understand and asked if it were a new kind of coffee we were selling. If so, she would like to come and work with us for she was not satisfied with the pay she was receiving.

But now they are beginning to understand our work and

東洋汽船株式會社



本社 東京市麴町區永樂町一丁目一番地（電話丸ノ内一五三〇、一五三一、一五三二、一五三三番）

營業所 横濱市山下町五番（電話本局四四〇〇、四四〇一、四四〇二、四四〇三、四四〇四番）

出張所 神戸市海岸通七番地。香港、キングス、ビルヂング。上海四川路ノース、チヤイナ、インシユランス。ビルヂング。マニラ、チヤコビルヂング。桑港、マーケット街六五二、マーチヤンツ、ナショナル、バンク、ビルヂング。紐育、ブロードウエイ、一六五。ホノルル、アレキサンダー、ヤング、ビルヂング。

北米航路（桑港、布哇ホノルル、横濱、神戸、長崎、上海、マニラ、及香港間）

本航路は太平洋航路中氣候温和、海上平穏なること第一にして船舶の巨大、設備の完全、待遇の懇切とに由り航海最も安全且つ愉快なり

船名	排水量
大洋丸	二二、〇〇〇噸
天洋丸	同 二二、〇〇〇噸
春洋丸	同 二二、〇〇〇噸
コレヤ丸	同 二〇、〇〇〇噸
サイベリヤ丸	同 二〇、〇〇〇噸
波斯丸	同 九、〇〇〇噸

さいべりや丸波斯丸は往復共大連に寄港す大連航路の偉觀なり

南米航路（香港、門司、神戸、横濱、布哇、桑港、維府、墨國、巴奈馬、秘露及智利諸港間）

本航路は東洋南米唯一の定期航路なり

船名	排水量
安洋丸	一八、七〇〇噸
銀洋丸	同 一六、〇〇〇噸
樂洋丸	同 一八、五〇〇噸
静洋丸	同 一四、〇〇〇噸

各寄港地及各國樞要都市に代理店の設備あれば船室保留並に發着日割等は最寄に就て御問合せを乞ふ

女子青年界第拾九巻第六號（毎月一日

大正十一年五月廿八日印刷納本大正十一年六月一日發行明治卅七年五月七日第三種郵